



# CADCity Ver9.00 機能アップマニュアル



# CADCity Ver9.00 機能アップマニュアル

---

## 目次

### 第1章 基本部

1-1 ツールビューの拡張	1- 1
1-2 枠選択 CSB	1- 4
1-3 レイヤー分解	1- 5

### 第2章 ファイル

2-1 開く	2- 1
2-2 シンボルリスト (新規コマンド)	2- 2
2-3 シンボル編集 (新規コマンド)	2- 6
2-4 図面文字列検索	2- 12
2-5 出図	2- 13
2-6 DXF/DWG 入出力	2- 14

### 第3章 編集

3-1 交点間消去	3- 1
3-2 重複線消去	3- 2
3-3 延長短縮	3- 3
3-4 部分スタイル	3- 4
3-5 レイヤー名称・縮尺設定	3- 4

### 第4章 建築

4-1 戸	4- 1
4-2 階段	4- 2
4-3 インサート	4- 8

### 第5章 電設

5-1 SY属性表示	5- 1
5-2 情報出力	5- 2
5-3 情報表示	5- 4

### 第6章 作図

6-1 円	6- 1
6-2 丸面	6- 2
6-3 Bスプライン円弧補間 (新規コマンド)	6- 2
6-4 角度寸法	6- 3
6-5 基準寸法 (新規コマンド)	6- 5
6-6 基準寸法2 (新規コマンド)	6- 7
6-7 公差	6- 9
6-8 均等割付 (新規コマンド)	6- 10

## 第7章 補助

7-1	図枠呼出	7-1
7-2	隠線再計算	7-1
7-3	計測コマンド全般	7-2
7-4	距離計測	7-3
7-5	システム設定 / 全般 2	7-4
7-6	システム設定 / 検出	7-5
7-7	システム設定 / 寸法	7-7
7-8	システム設定 / 標準図面	7-8
7-9	システム設定 / 表示	7-9
7-10	システム設定 / バインダー	7-10

## 第8章 オプション

8-1	カラーラスタライク (新規オプション)	8-1
-----	---------------------	-----



## 第 1 章 基本部

1 - 1

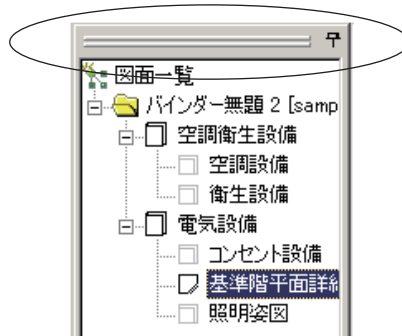
# ツールビューの拡張

図面重ね合せ表示・エクスプローラ・部品一覧などの複数ビューを追加しました。

## 【ツールビュー右位置への変更について】

ツールビューのバーの上でダブルクリックすることで、左側から右側へ、また右側から左側へ変更します。

変更先に右パネルが存在する場合は、自動的に隠れるモードに変わります。



システム設定 / バインダーのバインダー編集の起動 / ツールビューの表示方法によって、動作が多少異なります。

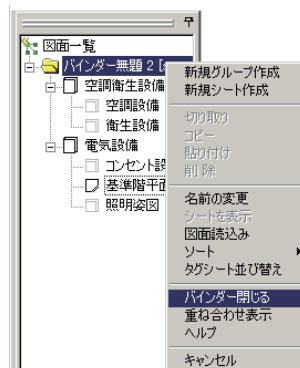
【オンマウスで自動的に表示する】を選択した場合、右側にツールビューを移動させると、右側にオンマウスしても表示されません。(右側にパネルを表示している場合)

この場合、元に戻すには、右パネルを全て非表示にするとオンマウスで表示されます。

## 【ツールビュー「バインダー閉じる」について】

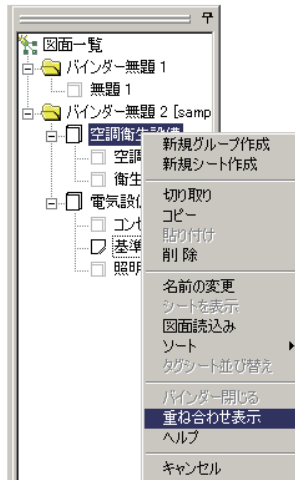
ツールビューの図面構成部に表示されているバインダー名上で右クリックして表示されるポップアップメニューに「バインダー閉じる」コマンドを追加しました。

ウィンドウタイトルバーの×印をクリックした時と同じ動作をします。



【ツールビュー「重ね合せ表示」について】

ツールビューの図面構成部に表示されているバインダー名およびタグ名上でマウス右ボタンで表示されるポップメニューに「重ね合わせ表示」コマンドを追加。



異なる図面同士を重ね合わせて表示する機能です。

これは、干渉または変更された部分をより素早く正確にチェックするために使用します。

【ツールビュー「エクスプローラビュー」について】

エクスプローラビューを選択すると、動作するパソコン全てのフォルダが表示されます。拡張子ビューを切り替えることで、外部入力可能なデータは全てここから選択をすることができます。



選択フォルダ内のファイルの表示するタイプは拡張子ビューより選択します。

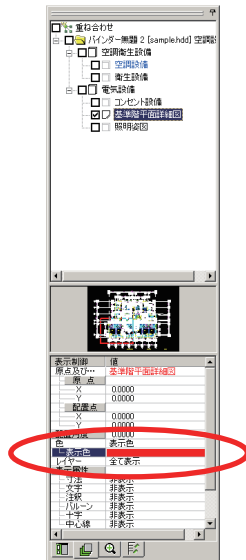


変換条件設定はあくまでも確認のためです。

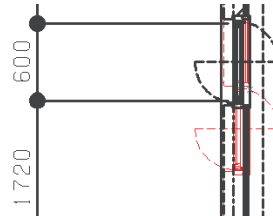
条件を変更したい場合はファイル / 外部入出力の各変換条件設定より変更してください。

【ツールビュー「重ね合せビュー」について】

重ね合せビューを選択すると、異なる図面間を重ね合せて表示しますので、干渉または変更された部分をより早く正確にチェックすることができます。



図面を重ね合わせれば修正部分が何処か、視覚的に捕らえることができます。



重ね合わせる図面の色彩は左図の丸印から変更することができます。

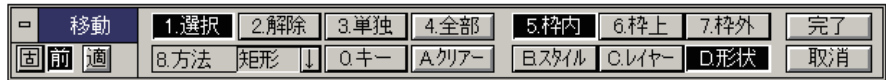
【ツールビュー「部品一覧」について】

図面に埋め込まれている「参照部品」「埋め込み部品」を一覧で表示する機能ですが、本システムは参照部品・埋め込み部品に対応しておりません。

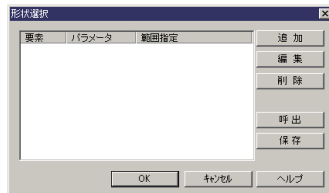
1 - 2

枠選択 CSB

枠選択 CSB に「D. 形状」ボタンを追加しました。  
また新たな選択方法も追加しました。



作図されている要素（線分、円、円弧、楕円、楕円弧）の大きさを指定して、選択範囲の許容値とすることができます。CSB の [D. 形状] をマウス右ボタンでクリックします。以下のダイアログボックスが表示されます。



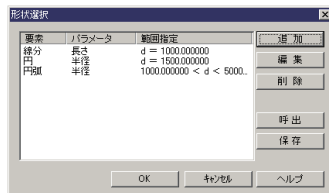
パラメータを追加します。

[追加] ボタンをクリックすると、以下のダイアログボックスが表示されます。



各要素ごとに、各種のパラメータの許容値（上限 / 下限）を設定することができます。

OK ボタンをクリックすると、[形状選択ダイアログボックス] にパラメータが追加されます。



設定値は、まとめてファイルに保存し、必要な時に呼び出すことができます。

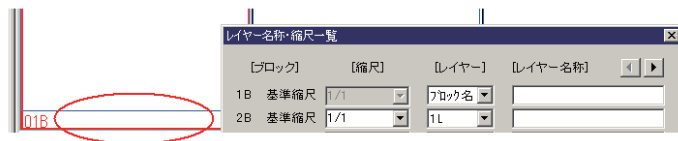


## 1 - 3

## レイヤー分解

レイヤ分解時に、レイヤー名称の入力・変更ができる機能を追加しました。

右パネルのレイヤー分解表示をした時に、レイヤー名称が表示される部分をダブルクリックすると、レイヤー名称・縮尺設定ダイアログボックスが表示されます。



レイヤー分解時の操作中レイヤーをメッセージ欄に表示するようにしました。

レイヤ-操作 | 複 写 | 複写先レイヤーを指定してください (複写元: 01B 01L)

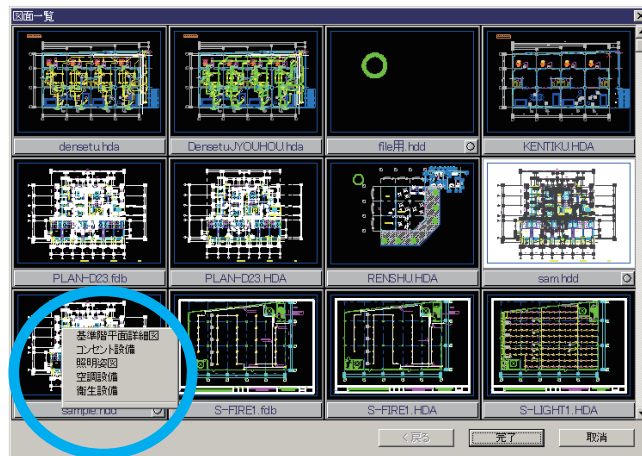


## 第2章 ファイル

## 2-1

## 開く

バインダー図面に対し、図面のサンプルイメージを表示するウィンドウの下にあるバーの上でマウス右クリックすると、HDD を構成するシート図面の表題を表示します。



選択用でなくバインダを構成するシート図面の確認用です。  
拡張子が hdd でない図面は表示しません。

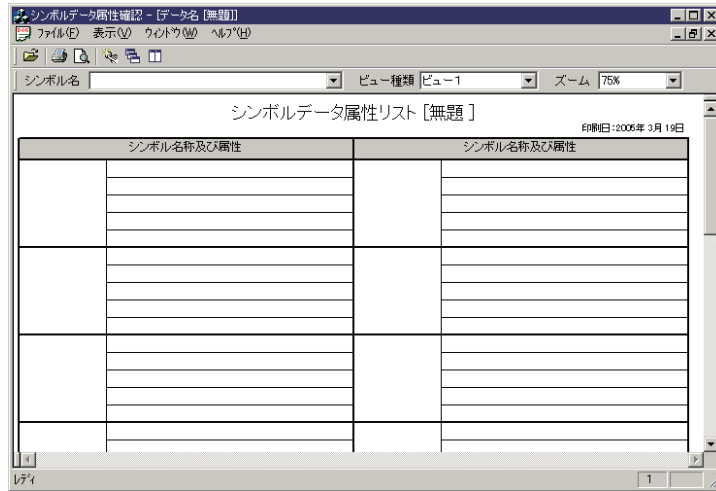
2-2

## シンボルリスト

新規コマンド

シンボル一覧を表示・印刷する機能を新規コマンドとして追加しました。

シンボルリストコマンドを実行すると下図のウィンドウが表示されます。



表示(B)

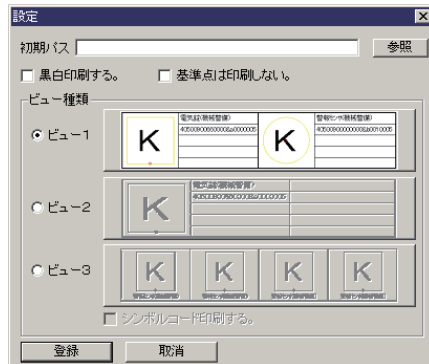
設定(S)...

▼ ツール バー(T)

▼ ステータス バー(S)

プルダウンメニューの表示 / 設定により、各種設定を行います。

設定コマンドを実行すると下図の設定ダイアログボックスが表示されます。



初期パス



開くコマンドで、最初に開かれるフォルダを指定します。

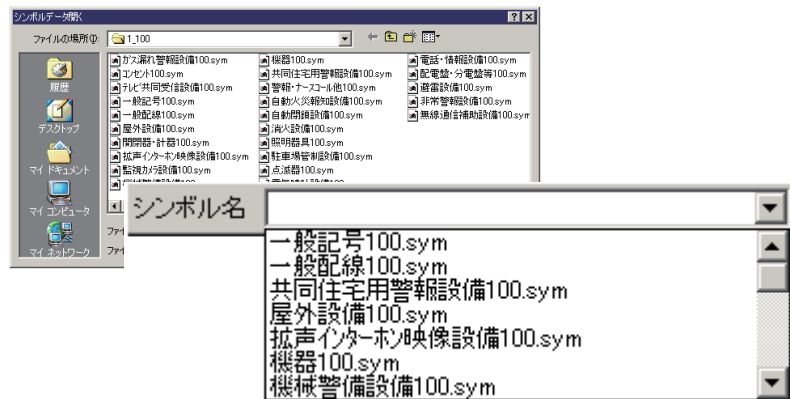
初期パスにシンボルファイルの存在するフォルダを指定した場合、起動時には「ファイル名」のプルダウンにそのフォルダ内のシンボルファイル名が表示されます。

【方法】

- ① [参照] ボタンをクリックし、設定したいフォルダパスを選択します。
- ② 選択が完了すると下図のように初期パスが反映されます。



上記のようなパス設定をした場合

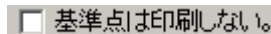


黒白印刷する



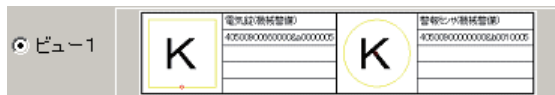
チェックがオンの時、表示されたシンボル色彩に関係なく白黒で印刷をします。チェックがオフの時、シンボルの色彩で印刷されます。

基準点は印刷しない

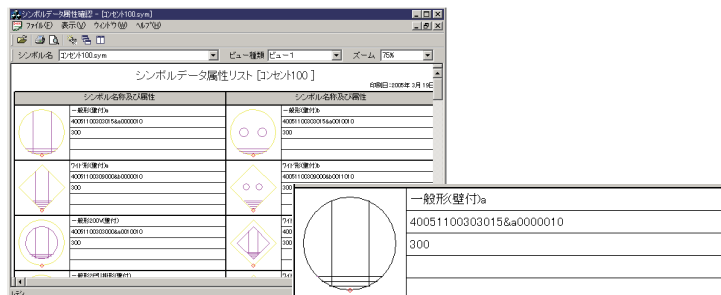


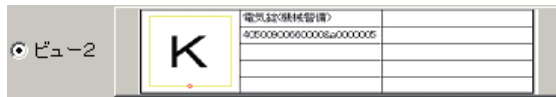
チェックがオンの時、シンボルの配置原点を印刷しません。チェックがオフの時、シンボルの配置原点を印刷します。

ビューの種類



シンボルの形状とシンボル名称・シンボルコード・シンボル高さ・第1属性・第2属性を2列に表示します。



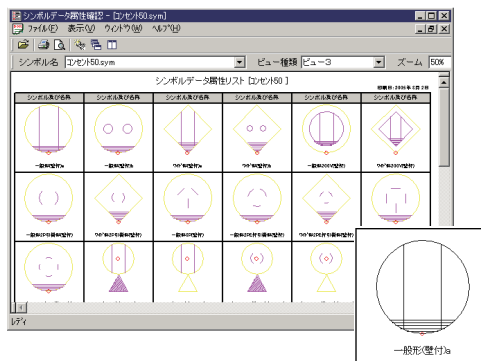


シンボルの形状とシンボルの属性すべてを表示します。



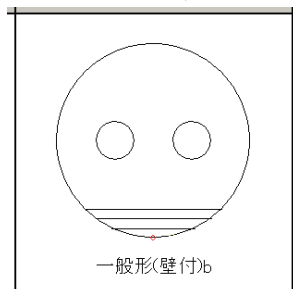
シンボルの形状を6列8段に一覧で表示します。

ビュー3を選択すると、シンボルコードを印刷する・しないのチェックボックスが選択可能となります。

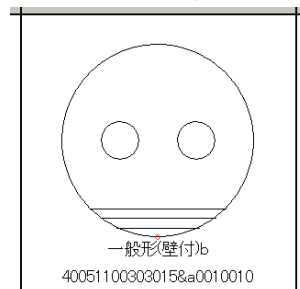


シンボルコード印刷する。

シンボルコード印刷 / オフ



シンボルコード印刷 / オン



その他

シンボル名

現在選択されているシンボルファイルの名称が表示されます。

をクリックすると現在選択されているシンボルファイルと同じフォルダ内に存在するシンボル全てが表示されます。

シンボル名

- 電気時計設備100.sym
- 電話・情報設備100.sym
- 非常警報設備100.sym
- 駐車場管制設備100.sym
- ガス漏れ警報設備100.sym
- コンセント100.sym**
- テレビ共同受信設備100.sym

ビュー種類

表示方法を「ビュー1」「ビュー2」「ビュー3」より選択します。

をクリックすると表示方法の一覧が表示されますので、都度表示を切り替えます。

※各ビューの表示対応は前ページを参照してください。

ズーム

シンボル一覧を表示する時のパーセントを選択します。

をクリックするとズームの種類の一覧が表示されます。

ズーム

- 50%
- 75%
- 100%
- 125%**
- 150%
- 200%



※一覧以外のパーセントでの表示は出来ません。

印刷フォーム



下図のようにページの先頭にはシンボル属性リスト「ファイル名」が表示され、一覧の右上には印刷した日時が記載されます。

シンボルデータ属性リスト [コンセント100]

印刷日: 2006年 3月 19日

シンボル名称及び属性		シンボル名称及び属性	
	一般形(壁付)a 40061100303015&a0000010 300		一般形(壁付)b 40061100303015&a0010010 300

下図のようにページの最後には、印刷したシンボルのフルパスとページ番号が記載されます。

	非常用コンセントb 40500200100000&b0001010 1300		非常用コンセント(防火性能追加)a 40500200100003&a0000010 1300
パス名: D:\cod_data\製品データ\異#citydeta\VER0202\シンボル\電気設備\協会標準\200141_1006		PageNo : 2 / 3	

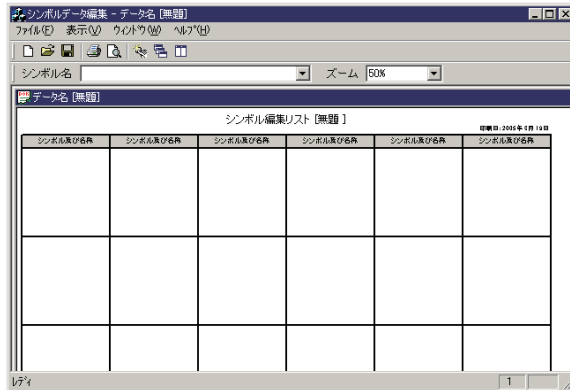
## 2 - 3

## シンボル編集

新規コマンド

複数シンボルファイルの中から任意のシンボルデータを選択し、1つのシンボルファイルにまとめる新規機能です。

シンボル編集コマンドを実行すると下図のウィンドウが表示されます。



表示 (V)

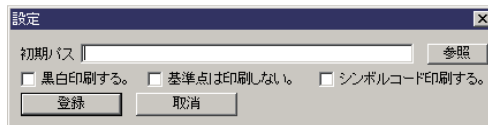
設定 (S)...

▼ ツール バー (T)

▼ ステータス バー (S)

プルダウンメニューの表示 / 設定により、各種設定を行います。

設定コマンドを実行すると下図の設定ダイアログボックスが表示されます。



初期パス

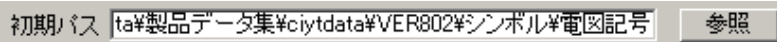


開くコマンドで、最初に開かれるフォルダを指定します。

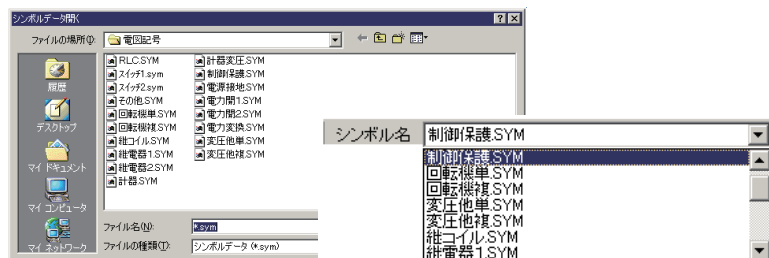
初期パスにシンボルファイルの存在するフォルダを指定した場合、起動時には「ファイル名」のプルダウンにそのフォルダ内のシンボルファイル名が表示されます。

## 【方法】

- ① [参照] ボタンをクリックし、設定したいフォルダパスを選択します。
- ② 選択が完了すると下図のように初期パスが反映されます。



上記のようなパス設定をした場合





黑白印刷する

黑白印刷する。

チェックがオンの時、表示されたシンボル色彩に関係なく白黒で印刷をします。  
 チェックがオフの時、シンボルの色彩で印刷されます。

基準点は印刷しない

基準点は印刷しない。

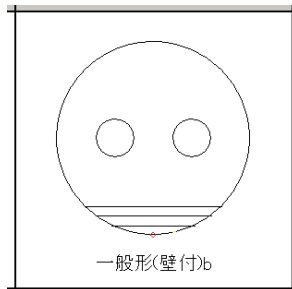
チェックがオンの時、シンボルの配置原点を印刷しません。  
 チェックがオフの時、シンボルの配置原点を印刷します。

シンボルコードを印刷する

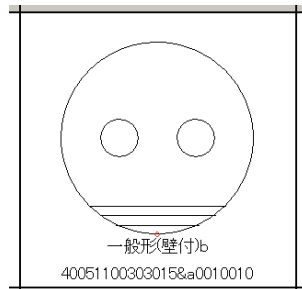
シンボルコード印刷する。

チェックがオンの時、シンボルコードを印刷します。  
 チェックがオフの時、シンボルコードを印刷しません。

シンボルコード印刷 / オフ



シンボルコード印刷 / オン



その他

シンボル名

現在選択されているシンボルファイルの名称が表示されます。

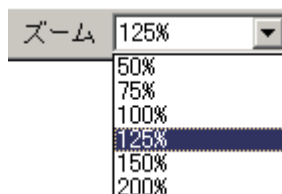
をクリックすると現在選択されているシンボルファイルと同じフォルダ内に存在するシンボル全てが表示されます。



ズーム

シンボル一覧を表示する時のパーセントを選択します。

をクリックするとズームの種類の一覧が表示されます。

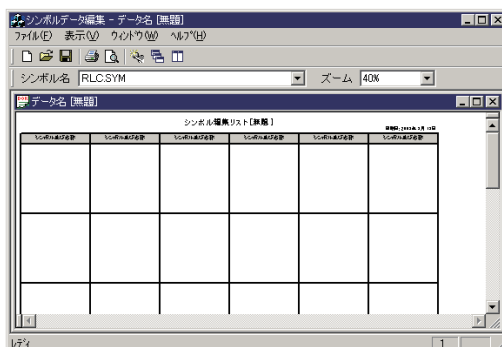


※一覧以外のパーセントでの表示は出来ません。

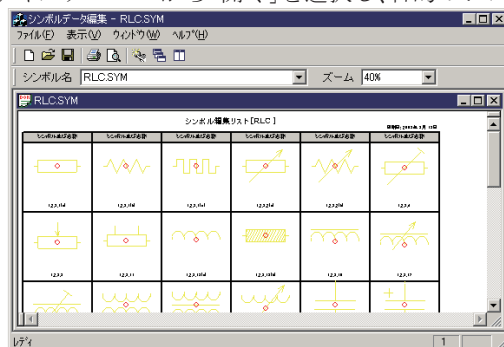
## 操作方法

## 【新規ファイルに任意のシンボルを合成し保存する方法】

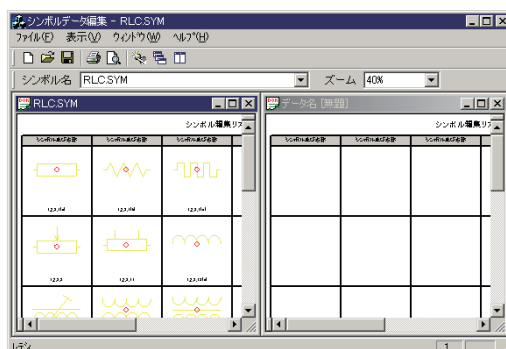
- ① ファイルメニューから「新規作成」を選択します。  
下図のように空のシンボルファイルが表示されます。



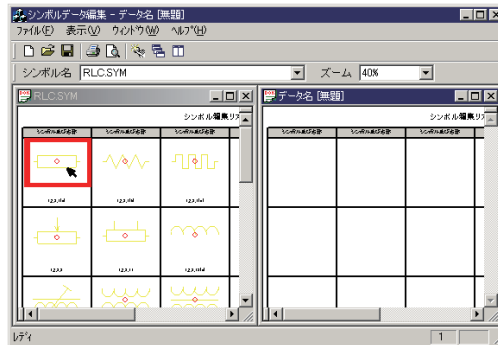
- ② シンボルファイルに合成したいシンボルが含まれるシンボルファイルを開きます。  
ファイルメニューから「開く」を選択し、目的のシンボルファイルを開きます。



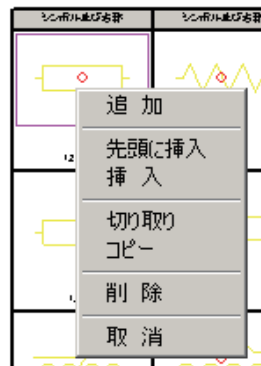
- ③ 新規ファイルと、②で開いたファイルを並べて表示します。  
ウィンドウメニューから「並べて表示」を選択します。  
下図のようにファイルが横に2つ並んで表示されます。



- ④ 開いたシンボルファイルの中から目的のシンボルの上にマウスを移動させると、そのシンボルが赤枠で選択されます。



赤く選択されている状態にマウスの右ボタンをクリックするとメニューが表示されます。



追加：

別のシンボルファイルを、現在のシンボルファイルの最後に追加します。

先頭に挿入：

別のシンボルファイルを、現在のシンボルファイルの先頭に挿入します。

挿入：

別のシンボルファイルを、現在のシンボルファイルのマウスカースルの位置に挿入します。

切り取り：

赤く検出されているシンボルを切り取ります。

コピー：

赤く検出されているシンボルをコピーします。

削除：

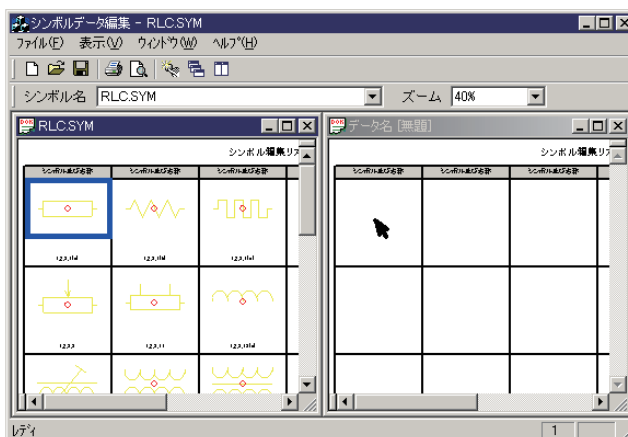
赤く検出されているシンボルを削除します。

取消：

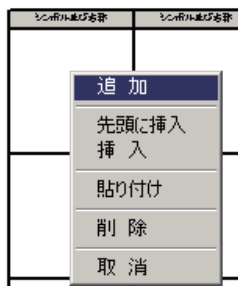
コピーや切り取り等の作業を取り消します。

例えば「コピー」を選択します。

- ⑤ コピーをしたシンボルは青枠で囲まれます。  
マウスカーソルを新規作成で開いたシンボルファイルに移動します。



- ⑥ 新規作成で開いたシンボルファイルの上でマウス右ボタンをクリックするとメニューが表示されます。



追加：

別のシンボルファイルを、現在のシンボルファイルの最後に追加します。

先頭に挿入：

別のシンボルファイルを、現在のシンボルファイルの先頭に挿入します。

挿入：

別のシンボルファイルを、現在のシンボルファイルのマウスカーソルの位置に挿入します。

貼り付け：

コピーまたは切り取りをしたシンボルをマウスカーソルの位置に貼り付けます。

削除：

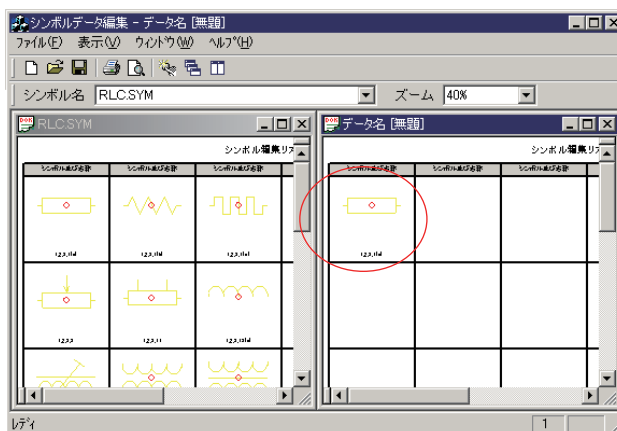
赤く検出されているシンボルを削除します。

取消：

コピーや切り取り等の作業を取り消します。

今回は「貼り付け」を選択します。

- ⑦ 新規作成で開いた空のシンボルファイルに、別ファイルより選択した任意のシンボルがコピーされます。



このような操作を繰り返すことで、必要なシンボルを1つのファイルにまとめたりすることができます。

- ⑧ シンボルの合成が完了したらファイルメニューより「名前を付けて保存」を選択し、任意のファイル名をつけて保存します。



コピーや切り取り・削除などのシンボルの選択は、Windowsの基本操作と同様にCTRLを押しながらクリックした場合はランダムに複数のシンボルを指定できます。

SHIFTを押しながら2つのシンボルを選択することで、範囲選択が可能です。

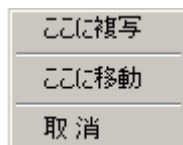
※ CTRL+Cなどの機能は使えません。



シンボルを指定でマウス左ボタンを押しながらドラッグ&ドロップをすることも可能です。

マウス左ボタンでのドラッグ&ドロップは「移動」となります。

マウス右ボタンでドラッグ&ドロップをすると、ドロップした時に下図のメニューが表示されますので、選択をすることができます。



複数ファイルを選択してドラッグ&ドロップを実行することはできません。

ドラッグ&ドロップはマウス左ボタンを押したときに、青枠で選択されているシンボルが対象となります。

## 2 - 4

## 図面文字列検索

検索条件にファイル名を追加しました。

検索条件にファイル名を追加しました。

検索するファイルの名前全体か、名前の一部を入力します。

ファイル名には「\*」または「?」のワイルドカード文字を含めることができます。

「;」で区切ることで複数指定することができます。

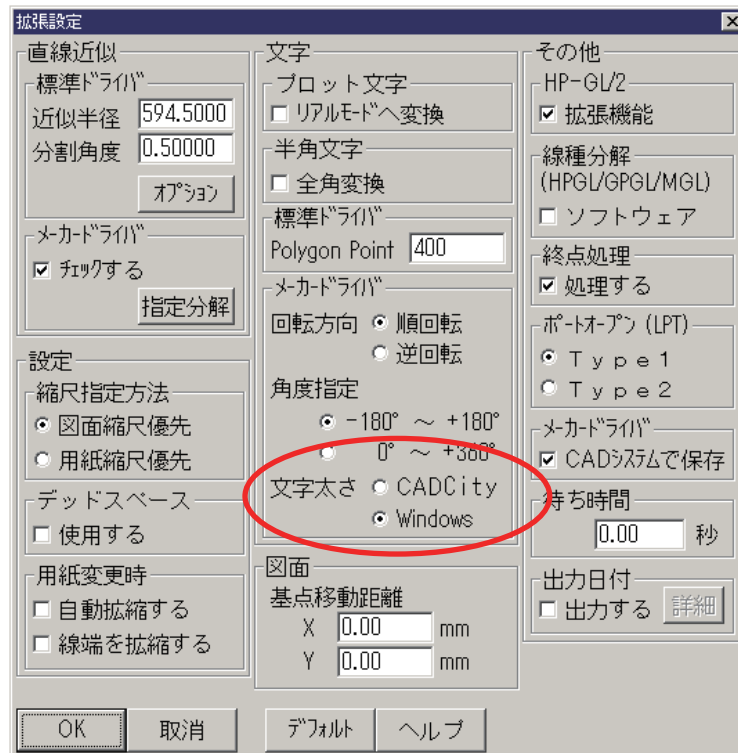


## 2 - 5

## 出図

拡張設定に文字の太さを指定できる項目を追加しました。

「環境設定」 「拡張設定」 のメーカードライバの欄に「文字太さ」の選択項目が追加されました。



CADCity / Windows より選択します。

CADCity を選択した場合、他のアプリケーションから出力するよも、通常文字ならば若干細く、ボードならば若干太く出図されます。

Windows を選択した場合、他のアプリケーションで出力される文字の太さにより近い形で出図されます。

※ CAD で出図する場合、太い文字と通常文字の差別化のため太さ・細さをより強調するように出図されます。

但し、視覚的に大きく変化することはありません。

## 2 - 6

## DXF/DWG 入出力

変換条件設定ダイアログボックスを大幅に変更しました。

Ver8 入力  
変換条件設定画面

要素属性変換表

全般 | 線種 | 寸法 | 色 | レイヤー

塗りつぶし処理設定  
 未定義の線種が入力されたら、警告BOXを表示する。  
 レイヤー名に「ZUWAKU」或いは、「図枠」があれば、図枠レイヤーに入力する。

本システムにないフォントの代替フォント: HG丸ゴシックM-PRO

データ読み込み設定  
 カレント空間     モデル空間

レイヤー  
 要素が含まれてないレイヤーは読み込まない。(レイヤーを詰める)  
 非表示レイヤーを表示するように入力する。  
 DEFポイントレイヤーを読み込まないようにする。

入力時の用紙、縮尺  
 用紙サイズは既定値を使用、縮尺は自動設定する。  
 用紙サイズ、縮尺とも既定値を使用する。  
 用紙サイズは自動設定、縮尺は既定値を使用する。

用紙サイズ: A1横    用紙横長: 841.00    用紙縦長: 594.00  
 縮尺: 1/100    図面横長: 84100.00    図面縦長: 59400.00

スプライン入力方法  
 線分補間     B-スプライン  
 補間分割数: 5

初期値(R)

線分補間を各線幅に変換

DXF/DWG線幅	線幅番号	線幅
0.18未満	0	0.13mm
0.18 以上-0.25未満	1	0.18mm
0.25 以上-0.35未満	2	0.25mm
0.35 以上-0.50未満	3	0.35mm
0.50 以上-0.70未満	4	0.50mm
0.70 以上-1.00未満	5	0.70mm
1.00 以上-1.40未満	6	1.00mm
1.40 以上-2.00未満	7	1.40mm
2.00 以上	8	2.00mm

テーブルの名称: Standard Table    追加    削除

全初期値    完了    取消    保存    ヘルプ

Ver9 入力  
変換条件設定画面

要素属性変換表

全般 | 線種 | 寸法 | 色 | レイヤー

塗りつぶし処理設定     ブロックをシンボルに入力する。  
 未定義の線種が入力されたら、警告BOXを表示する。  
 レイヤー名に「ZUWAKU」或いは、「図枠」があれば、図枠レイヤーに入力する。

本システムにないフォントの代替フォント: DA ゴシック

データ読み込み設定  
 カレント空間     モデル空間

レイヤー  
 要素が含まれてないレイヤーは読み込まない。(レイヤーを詰める)  
 非表示レイヤーを表示するように入力する。  
 DEFポイントレイヤーを読み込まないようにする。

入力時の用紙、縮尺  
 用紙サイズは既定値を使用、縮尺は自動設定する。  
 用紙サイズ、縮尺とも既定値を使用する。  
 用紙サイズは自動設定、縮尺は既定値を使用する。

用紙サイズ: A0横    用紙横長: 1189.00    用紙縦長: 841.00  
 縮尺: 1/1    図面横長: 1189.00    図面縦長: 841.00

スプライン入力方法  
 線分補間     B-スプライン  
 補間分割数: 5

初期値(R)

表題処理設定  
 ファイル名をセットする。  
 レイアウト名をセットする。  
 ブランクにする。

文字情報処理設定  
 文字幅の小数点以下切る桁数: 2 (範囲: 0~3、四捨五入する)  
 文字情報保持し、保存された情報で出力する。(文字線幅含む)

テーブルの名称: Standard Table    追加    削除

全初期値    完了    取消    保存    ヘルプ



## 全般

削除された項目

ポリラインを線幅に変更する設定

追加された項目

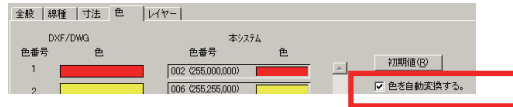
表題処理設定

文字情報処理設定

ブロック図形をシンボルに代入

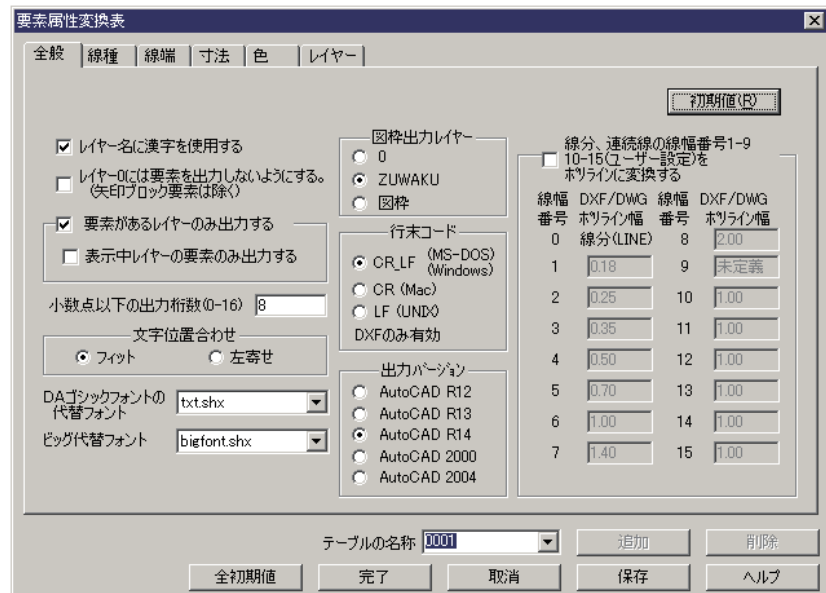
## 色

色を自動変換するのチェック項目を追加



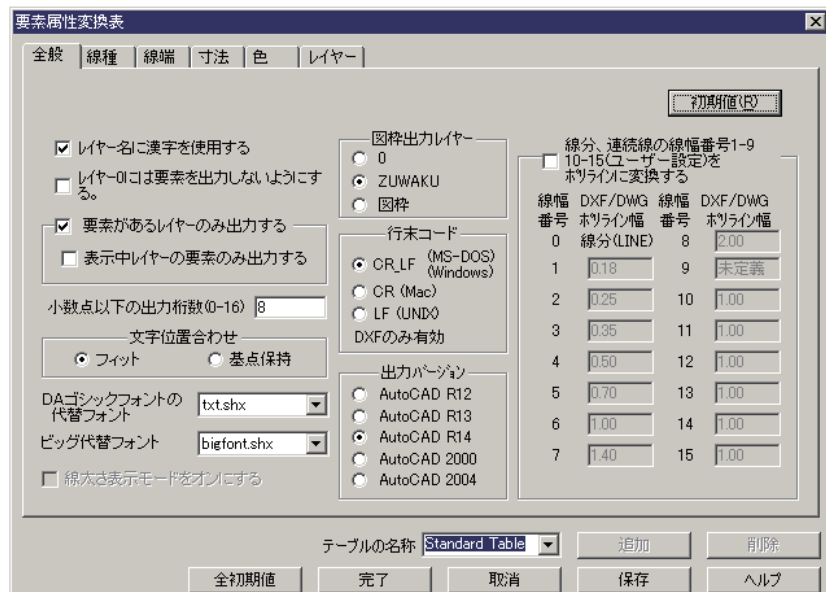
## Ver8 出力

変換条件設定画面



## Ver9 出力

変換条件設定画面



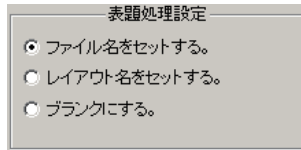
## ● 拡張項目

要素の線幅は自動的に保持して入力または出力をします。

AutoCAD のブロック図形を本システムのシンボルとして取込む機能を追加しました。

出力時に寸法公差（ハメアイ公差を含む）寸法情報に付加します。

出力時、寸法文字は全てマルチテキスト属性として出力します。



## 【表題処理設定】

ファイル名セットする

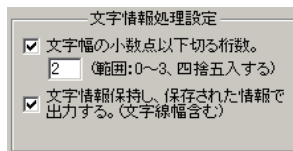
- ・ DWG/DXF のファイル名を表題にセットします。

レイアウト名をセットする

- ・ DWG/DXF のレイアウト名を表題にセットします。

ブランクにする

- ・ 表題に何もセットしません。（空欄の状態）



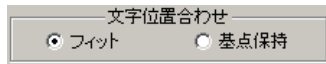
## 【文字情報処理設定】

文字幅の小数点以下切る桁数

- ・ DWG/DXF 文字データを入力時、文字幅の縦横比の小数点以下数字は計算値をセットするため、とても細かな数字になってしまいます。（例えば、0.8999999999 など）  
これを防ぐために設定を設けました。  
0 から 3 までの数値をセットします。

文字情報を保持し、保存された情報で出力する

- ・ 本システムを起動しているパソコンにないフォントデータが入力された場合に、文字フォント名・文字幅・文字線幅を保存します。

**【文字位置合わせ】**

従来の文字位置合わせは「フィット」「左寄せ」からの選択でしたが、本バージョンでは「フィット」「基点保持」より選択をします。

基点保持は本システムに作図された文字基点のままです。但し「先・末」は「左詰め・右詰め」に置き換わります。

**【ポリライン変換の制御】**

出力バージョンが AutoCAD2000 以上の場合、無条件に線幅情報を出力します。（設定する必要がないため、設定欄は入力できなくなる）  
出力バージョンが AutoCAD R14 以下の場合、従来通りの設定で出力されます。

 **線太さ表示モードをオンにする****【AutoCAD 上の線太さ表示モード】**

出力バージョンが AutoCAD2000 以上の場合、チェックマークの選択が可能となります。  
チェックをオンにすると AutoCAD で開いた時に線幅とおりに表示されます。チェックがオフの場合、AutoCAD で開いても線の太さは変わりません。

**【線幅について】**

出力バージョンが AutoCAD2000 以上の場合、無条件に線幅情報を出力します。（設定する必要がないため、設定欄は入力できなくなる）  
出力バージョンが AutoCAD R14 以下の場合、従来通りの設定で出力されます。

**【色彩について】**

要素色は AutoCAD と同じ色を取込みます。  
CADCity に存在しない色彩が読み込まれた場合は、自動的にユーザー定義にその色彩を取込、同じ色を表示させます。

**【文字について】**

寸法文字は全てマルチテキストとして出力されます。

**【寸法公差について】**

寸法情報の公差値の文字列を認識します。

**【一括出力について】**

ファイルの拡張子は入力時の拡張子が小文字・大文字かによって、それに従うようにします。

**【モデル空間のブロックに從属している寸法属性について】**

寸法属性を保持します。

【ブロック図形をシンボルとして取込む機能について】

入力するための条件は以下の通りです。

- ①モデル空間またはレイアウト空間でビューポート投影されていない  
ブロック図形
- ②元データが本システムに描かれたグループ図形ではない図形



## 第 3 章 編集

## 3 - 1

## 交点間消去

交点間要素を連続にて保存できる機能を追加しました。

従来の動作も残すために、コマンドの先頭状態にて「マウス右クリック」で単独 / 連続指定モードを切り替えます。

交点間消去	連続	要素を指定 (右ボタン=単独)
交点間消去	単独	要素を指定 (右ボタン=連続指定)

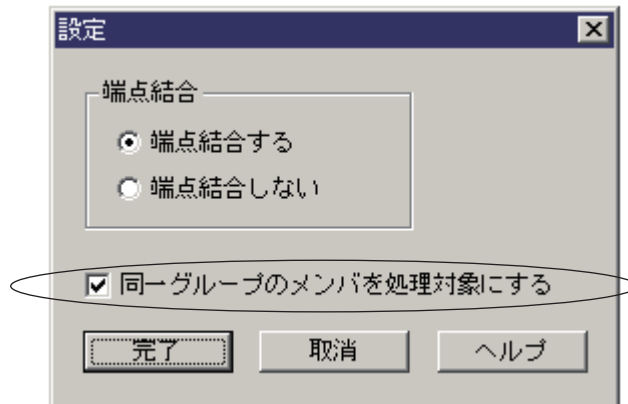
連続指定の場合、BS キーにて直前指定要素を解除。

## 3 - 2

## 重複線消去

設定ダイアログボックスに「同一グループメンバを処理対象にする」のチェックボックスを追加しました。

## 7.設定



チェックをオフにすると、同一グループ内の重複線の処理を対象にしません。

## 3 - 3

## 延長短縮

線分長ボタンは線分要素のみの対象でしたが、円弧・楕円弧・スプラインも対象にするため、CSBのボタン名称を「要素長」に変更。





## 3 - 4

## 部分スタイル

部分スタイル変更の要素指定に、枠選択機能を追加しました。

従来の動作も残すために、コマンドの先頭状態にて「マウス右クリック」で従来モード / 枠選択モードを切り替えます。

部分スタイル	単独	変更要素を指定(マウス右ボタンで枠指定)
部分スタイル	枠指定	枠 (一回のみ) で要素を指定

※枠選択の動作については切取複写 / 移動コマンドと同様です。

## 3 - 5

## レイヤー名称・縮尺設定

設定情報の書き込みファイルを変更しました。

従来の設定情報はシステムをインストールしたフォルダの `%sysinfo%\caduser.ini` に書き込まれていましたが、本バージョンより、単独ファイルに保存するように移行しました。

`%sysinfo%\caduser.ini` → `%sysinfo%\layerstyle.ini`



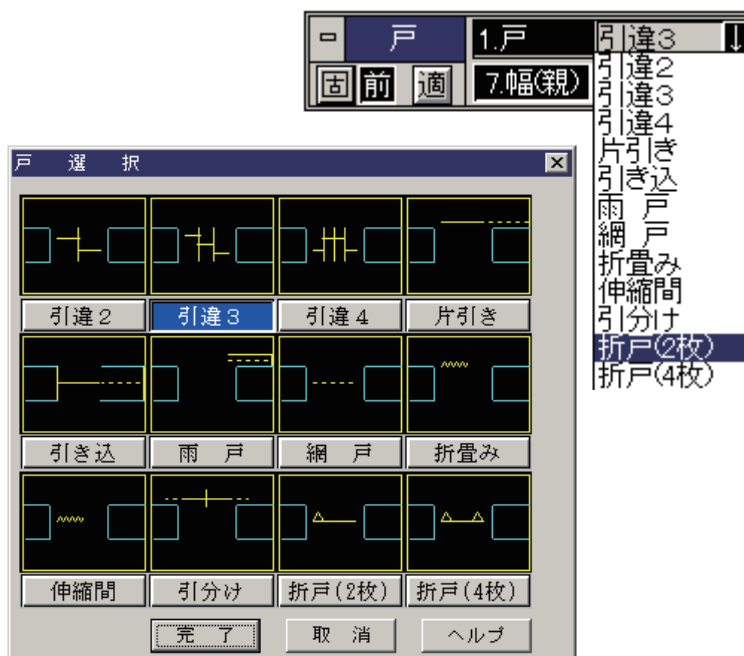
## 第 4 章 建築

4 - 1

戸

戸の種類に「折戸 2枚 / 4枚 (クロゼット)」を追加しました。

戸の種類に「折戸 2枚 / 4枚」の形状を追加しました。



4 - 2

階 段

新規コマンド

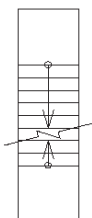
階段の作図機能を追加しました。

コマンドを選択すると下記 CSB が表示されます。



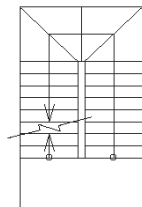
1.直階段

ボタンをオンにすると直階段を作図します。



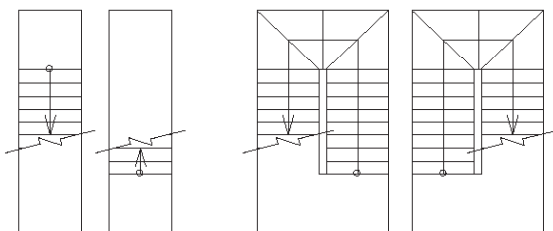
2.折返階段

ボタンをオンにすると折返階段を作図します。



3.対称

ボタンをオンにすると階段を対称に作図します。

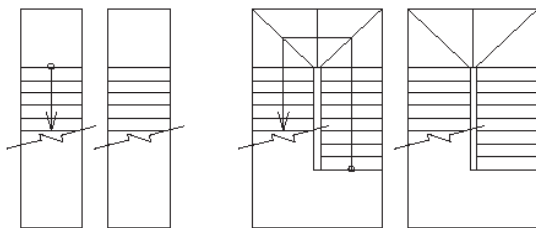


【オン】 【オフ】

【オン】 【オフ】

5.階段矢印

ボタンをオンにすると階段矢印を作図します。

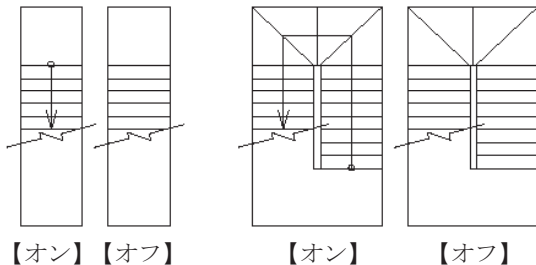


【オン】 【オフ】

【オン】 【オフ】

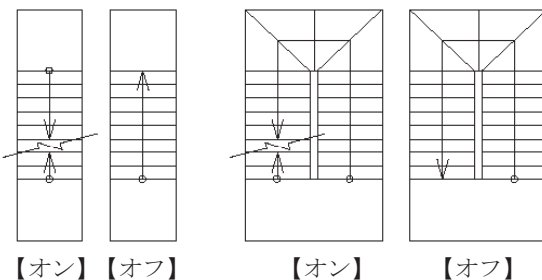
**5.階段矢印**

ボタンをオンにすると階段矢印を作図します。



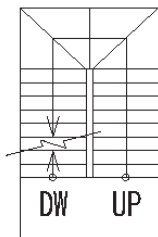
**6.破断線**

ボタンをオンにすると破断線を作図します。



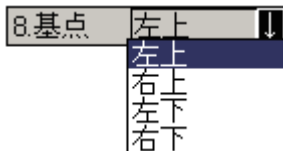
**7.U/D記号**

ボタンをオンにするとUP/DOWNの文字列を作図します。  
文字の作図位置は任意に指定します。



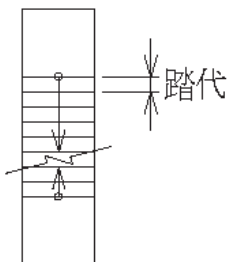
**8.基点** 左上 ↓

階段作図時の基点を選択します。



**9.踏代** ↓ 200.0000 ↓ mm

階段の踏み代を入力します。

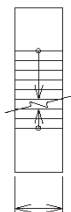


**0**段数 **U** **8** **↓** 段

階段の段数を入力します。

**A**階段幅 **W** **900.0000** **↓** mm

階段の段数を入力します。

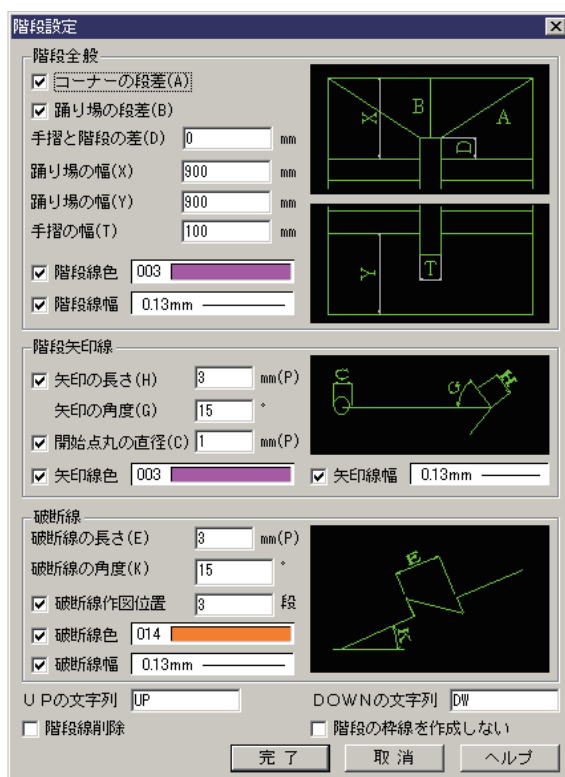


階段幅



**B**設定

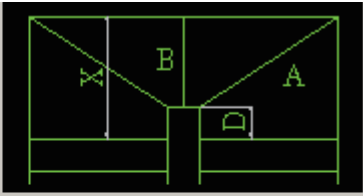
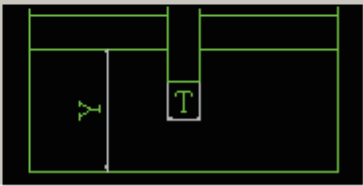
階段作図のための各種設定を行います。

設定ボタンをクリックすると下記のダイアログボックスが表示されます。



## 【階段全般】

<input type="checkbox"/>	コーナーの段差(A)	
<input type="checkbox"/>	踊り場の段差(B)	
	手摺と階段の差(D)	0 mm
	踊り場の幅(X)	900 mm
	踊り場の幅(Y)	900 mm
	手摺の幅(T)	100 mm
<input checked="" type="checkbox"/>	階段線色	003 
<input checked="" type="checkbox"/>	階段線幅	0.13mm 

コーナーの段差はサンプルプレビューの「A」の線を示します。

踊り場の段差はサンプルプレビューの「B」の線を示します。

## 階段線色

チェックオンの場合：指定した色彩で作図されます。

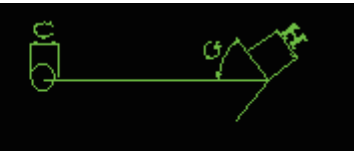


チェックオフの場合：右パネルの色彩を参照して作図されます。

## 階段線幅

チェックオンの場合：指定した線幅で作図されます。

チェックオフの場合：右パネルの線幅を参照して作図されます。

## 【階段矢印】

<input checked="" type="checkbox"/>	矢印の長さ(H)	3 mm(P)	
	矢印の角度(G)	15 °	
<input checked="" type="checkbox"/>	開始点丸の直径(C)	1 mm(P)	
<input checked="" type="checkbox"/>	矢印線色	003 	<input checked="" type="checkbox"/>
	矢印線幅	0.13mm 	

## 矢印の長さ

チェックオンの場合：指定した形状の矢印を作図します。

チェックオフの場合：矢印の線端形状を作図しません。



矢印の長さおよび開始点丸の入力値はプロットモードです。

## 矢印線色

チェックオンの場合：指定した色彩で矢印を作図されます。

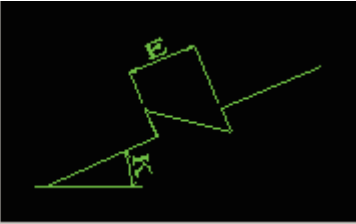

チェックオフの場合：右パネル線色を参照して作図されます。

## 矢印線幅

チェックオンの場合：指定した線幅で矢印が作図されます。

チェックオフの場合：右パネルの線幅を参照して作図されます。

【破断線】

破断線の長さ(E)	<input type="text" value="3"/> mm(P)	
破断線の角度(K)	<input type="text" value="15"/> °	
<input checked="" type="checkbox"/> 破断線作図位置	<input type="text" value="3"/> 段	
<input checked="" type="checkbox"/> 破断線色	<input type="text" value="014"/> 	
<input checked="" type="checkbox"/> 破断線幅	<input type="text" value="0.13mm"/>	

破断線の長さ

「E」部分を指定した長さで作図します。



破断線の長さおよび開始点丸の入力値はプロットモードです。

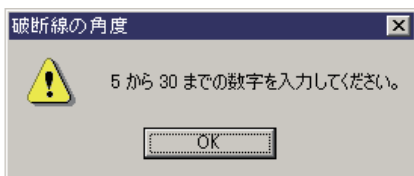
破断線角度

破断線の角度を指定します。



破断線の角度は5°以上30°以下の制限があります。

制限外の数値を入力した場合は、下図のメッセージが表示されます。

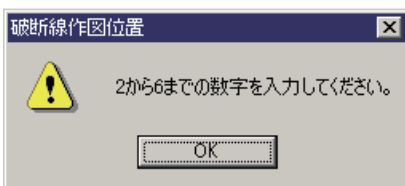


破断線の作図位置

破断線の作図位置を指定します。

チェックをオフにした場合、自動的に下から4段目に作図されます。

CSBで入力した段数の数値によりますが、作図不可能な段数が指定されると下図のメッセージが表示されます。



破断線色

チェックオンの場合：指定した色彩で作図されます。

チェックオフの場合：右パネルの線色を参照して作図されます。

破断線幅

チェックオンの場合：指定した線幅で作図されます。

チェックオフの場合；右パネルの線幅を参照して作図されます。

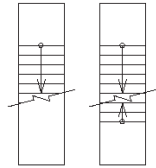
UPの文字列	<input type="text" value="UP"/>	DOWNの文字列	<input type="text" value="DW"/>
--------	---------------------------------	----------	---------------------------------

UP/DOWNの文字列を入力します。



階段線削除

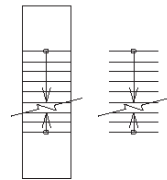
階段線を削除する場合にチェックをつけます。



【オン】 【オフ】

 階段の枠線を作成しない

階段枠線を作図しないときにチェックをつけます。



【オフ】 【オン】



操作方法はオンラインヘルプの「建築 / 記号・定型 / 階段」を参照してください。

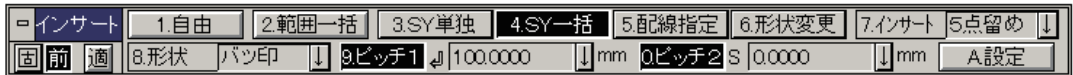
4-3

インサート

新規コマンド

一般的な建築図に用いるインサート記号作図する機能を追加しました。

コマンドを選択すると下記CSBが表示されます。



1.自由

ボタンをクリックすると自由配置専用のCSBが表示されます。



2.範囲一括

ボタンをクリックすると範囲一括専用のCSBが表示されます。



3.SY単独

シンボルをクリックし、単独でインサート記号を作図します。

4.SY一括

同じ形状のシンボルを一括で指定し、選択したシンボル全てにインサート記号を作図します。

5.配管指定

平行に作図された配管または通常線分を選択し、指定した距離でインサート記号を作図します。

6.形状変更

作図したインサート記号の形状を変更します。

7.インサート 2点留め ↓

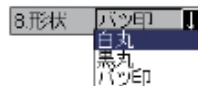
作図するインサートの留め数を1～5点留めより選択します。



1点留め 2点留め 3点留め 4点留め 5点留め

8.形状 バツ印 ↓

作図するインサート記号の形状を選択します。



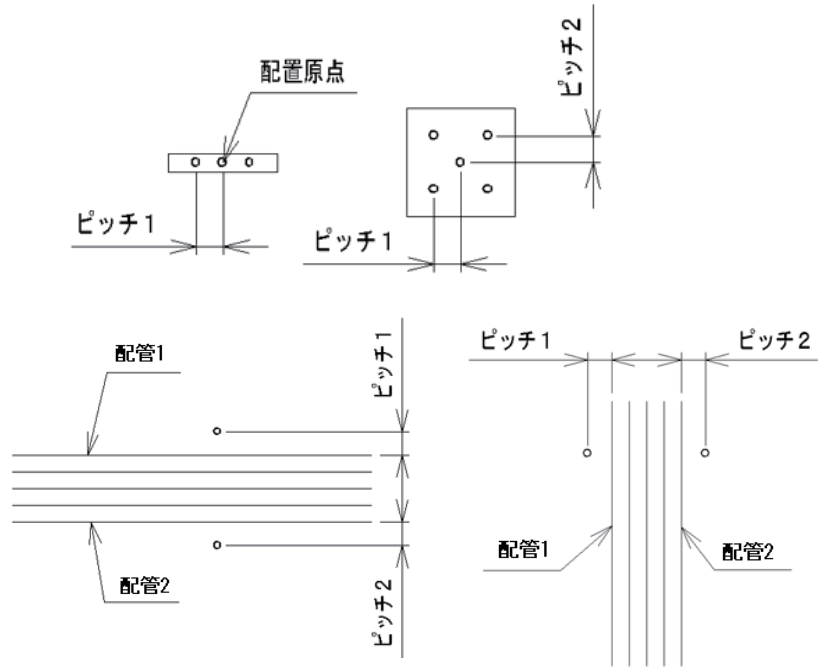
○ 白丸

● 黒丸

× バツ印

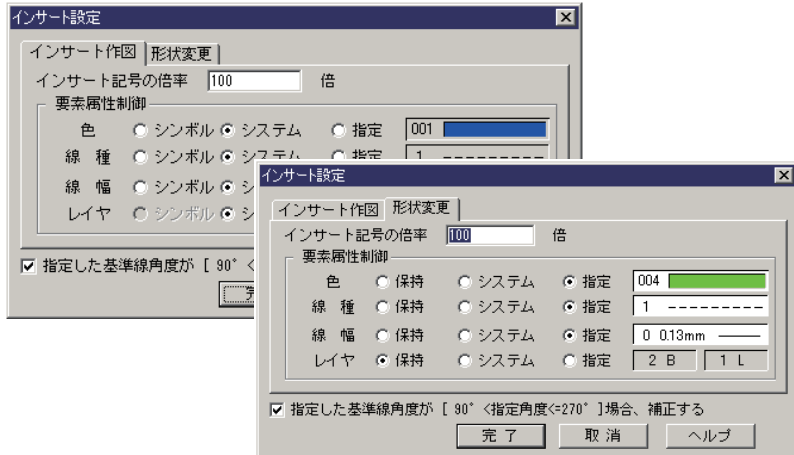
9.ピッチ1	↓	200.0000	↓	mm
0.ピッチ2	S	200.0000	↓	mm

シンボルに記号を配置する場合は、シンボルの配置原点から記号までの距離、また、配管に配置する場合は配管からの距離を指定します。

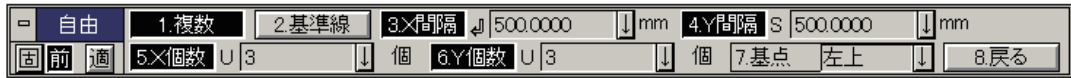


**A 設定**

インサート記号の作図時及び変更時のスタイル設定を行います。



◆自由配置 CSB ◆



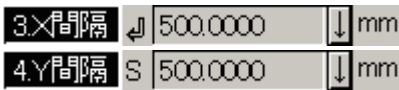
インサート CSB の【自由】を選択すると上記 CSB が表示されます。

1.複数

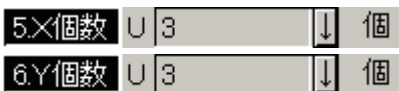
オンの場合個数及び間隔を指定し、複数個を一括で作図することができます。オフの場合単独で1つの記号を作図します。このボタンがオフの場合、戻るボタン以外は全てグレー表示となります。

2.基準線

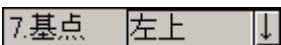
ボタンをクリックすると、基準線を指定のメッセージが表示されます。任意の要素を指定すると、その指定した要素の角度で複数個のインサート記号が配置されます。



複数を一括で作図するときの X 方向及び Y 方向の間隔を指定します。



複数を一括で作図するときの X 方向及び Y 方向の個数を指定します。



複数を一括で作図するときの配置基点をプルダウンより選択します。



8.戻る

インサート CSB に戻ります。

◆範囲一括 CSB ◆



範囲の指定方法をプルダウンより選択します。



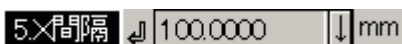
1. 操作で「中指定」を選択した時にこのボタンがオンになります。マウス左ボタンでクリックすると下図の中指定条件設定ダイアログボックスが表示されます。



指定範囲に作図するインサート記号を中央から配置するか、中央で振り分けるかを選択します。



インサート記号の配置基点を任意に指定することができます。



作図するインサート記号のX方向およびY方向の間隔を指定します。



インサート CSB に戻ります。



操作方法はオンラインヘルプの「建築 / 記号・定型 / インサート」を参照してください。

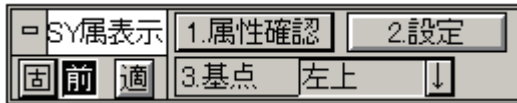


## 第5章 電設

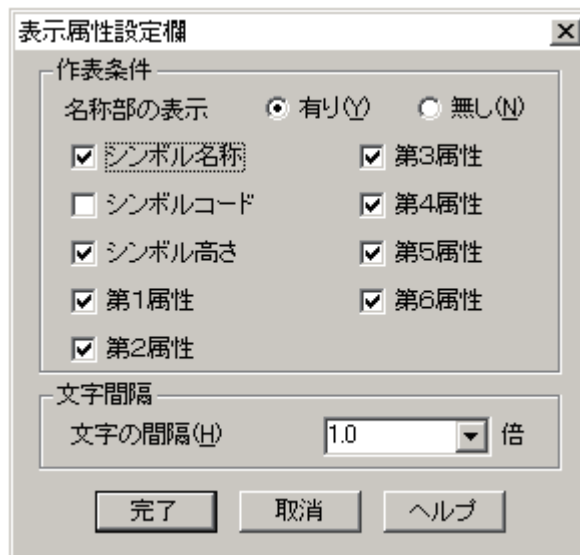
## 5 - 1

## S Y 属性表示

作表機能を追加しました。



設定ボタンを左クリックすると設定ダイアログボックスが表示されます。



名称部の表示：有り・無しより選択できます。  
表の文字の間隔を設定できます。

名称部有り

シンボル名称	検知器(ガス漏れ警報)
シンボル高さ	2900
第1属性	123
第2属性	458
第3属性	
第4属性	
第5属性	
第6属性	

名称部無し

検知器(ガス漏れ警報)
2900
123
458

5 - 2

情報出力

シンボルと配線が接続されている場合、シンボルの高さで配線の高さを自動認識して集計する機能を追加しました。



CSBに「2.SY高さ」ボタンが追加されました。

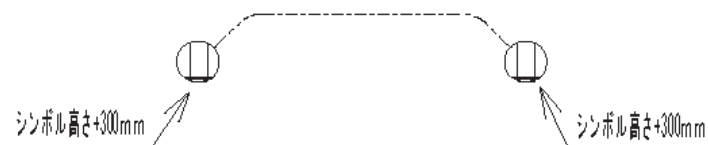
「2.SY高さ」ボタンをオンにすると、自動認識する機能が有効となります。ボタンがオフの場合は従来通りです。

「2.SY高さ」ボタンをマウス右ボタンをクリックすると、下図のダイアログボックスが表示されます。

この画面で線種ごとの配線の高さを入力・設定します。

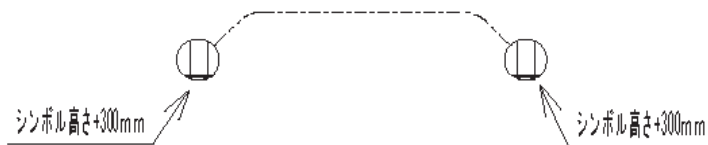


下図のように作図した場合





下図のように作図した場合



情報出力コマンドを選択し、CSB を下図のように設定します。



「2.SY 高さ」 ボタンを右クリックし、5. 一点鎖線に 2700 と入力し、完了します。



作図した配線とシンボルを選択します。

「2.SY 高さ」 ボタンがオフの場合（従来通り）

工事項目	材料名称	仕様	施工区分	合計値
電灯・コンセント設備工事	埋込コンセント (ﾌﾗｯｸﾞｰﾌﾟ)			2.00
電灯・コンセント設備工事	ねじなし電線管 EP			1.98
電灯・コンセント設備工事	600Vビニル絶縁電線 IV			4.96

「2.SY 高さ」 ボタンがオンの場合

工事項目	材料名称	仕様	施工区分	合計値
電灯・コンセント設備工事	埋込コンセント (ﾌﾗｯｸﾞｰﾌﾟ)			2.00
電灯・コンセント設備工事	ねじなし電線管 EP			6.78
電灯・コンセント設備工事	600Vビニル絶縁電線 IV			14.56

シンボルの高さが +300mm、配線の高さが +2700mm なので、高さ部分にあたる距離は  $2400\text{mm} \times 2 = 4800\text{mm}$  です。

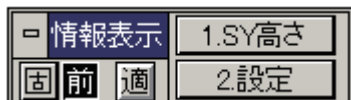
上の表のように「2.SY 高さ」 ボタンをオンにして集計をすると、実際の長さ + 高さ分を足した数値が表示されます。(上図の場合  $1.98 + 4.8 = 6.78$ )

(※ IV1.6 × 2 (E19) を付加したのでビニル管の場合は  $2400\text{mm} \times 4 = 9600\text{mm}$  です)

5 - 3

情報表示

情報表示コマンドを起動すると下記の GSB が表示されるようになりました。  
 シンボルと配線が接続されている場合、シンボルの高さ自動認識して表示します。また、設定ダイアログボックスでは計測モードの選択が可能です。



1.SY高さ

「1.SY高さ」ボタンをオンにすると、配線に接続されたシンボルの高さを自動認識する機能が有効となります。  
 ボタンがオフの場合は従来通りです。

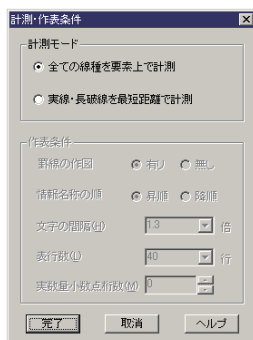
また本ボタンをマウス右ボタンでクリックすると下記のダイアログボックスが表示されます。

この画面で線種ごとの配線の高さを入力・設定します。



2.設定

マウス左ボタンでクリックすると計測モードを選択する下記のダイアログボックスが表示されます。





## 第6章 作図

## 6 - 1

## 円

同心円を作図後に検出を開放せず連続で作図できるように改造しました。

## 1. 同心円モード通過点指定連続

Ver8.00 までは [3. 同心円] ON、[6. 間隔] OFF の際、同心円を作成したい円・円弧を指定し、通過点を指定すると、同心円を作成したい円・円弧の検出が開放されていました。

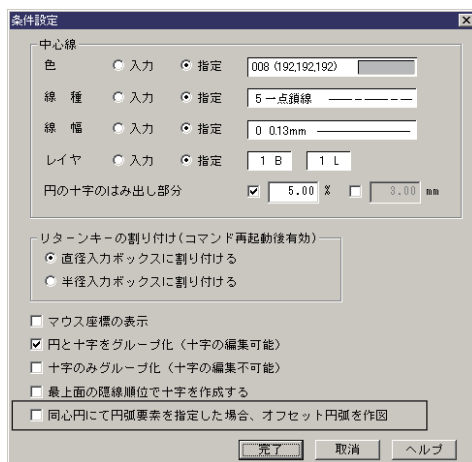
Ver9.00 よりマウス右クリック（キャンセル）、ESC キーが入らない限り、連続にて同心円を生成可能にしました。



※ [通過点] が OFF の場合に有効とします。[0. 半径] [A 直径] が ON の場合は機能拡張の対象となりません。[9. 個数] は有効とします。

## 2. 同心円モードで円弧を指定した場合にオフセット円弧を作図設定

円コマンド設定にて「同心円にて円弧要素を指定した場合、オフセット円弧を作図」が ON の場合、同心円モードの時、基準要素として円弧を指定したら、円弧オフセットを作図します。OFF の場合は従来通り円で作図。



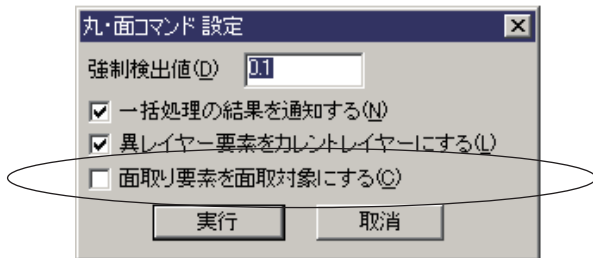
※ [6. 間隔] [9. 個数] [0. 半径] [A 直径] が ON の場合も対象とします。

## 6 - 2

## 丸面

面取りした要素を面取りの対象とする設定を追加しました。

設定ダイアログボックスにチェックボックスを追加しました。



## 6 - 3

## B スプライン円弧補間

新規コマンド

B スプラインを円弧要素に変換する機能を追加しました。

B スプラインはそのままでは修正ができないために、円弧要素に変換して修正を可能にします。



コマンドを選択すると枠選択 CSB が表示されます。  
B スプライン要素を選択すると上記 CSB が表示されます。

スプラインの分割数や許容値を入力し「実行」ボタンをクリックします。

6 - 4

角度寸法

寸法値を度分秒で表示する時、度・分・秒の四捨五入をするように拡張しました。

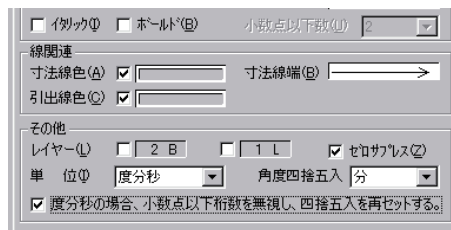
- ① 単位のコンボボックスに表示単位を“度分秒”ではない場合、拡張した四捨五入表示を使わないように網掛けにする。



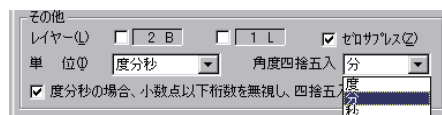
- ② 単位コンボボックスの表示単位が“度分秒”であれば、拡張した四捨五入表示部分は選択が可能となる。但し“度分秒の場合、小数点以下桁数を無視し、四捨五入を再セットする。”チェックボタンがオフであれば、従来通りと同じ方法で四捨五入する。



- ③ 四捨五入方法を使用することで、チェックボックスがオンであれば“角度四捨五入”コンボボックスは選択可能となり、従来の“小数点以下数”コンボボックスは網掛けとなる。



- ④ 角度四捨五入の説明  
 “度”・“分”・“秒”の三つの種類中、どれか一つを寸法値の四捨五入で使う。  
 区切りは30とする。



- a. “度” が選択された場合：  
 “分” の数字が 30 以上であれば、“度” の寸法値に +1 を足し、“分” の寸法値は 0 に入れる。  
 例：計測寸法値が  $35^{\circ} 42'$  →  $36^{\circ}$  で寸法値を表示する。  
 計測寸法値が  $35^{\circ} 24'$  →  $35^{\circ}$  で寸法値を表示する。
- b. “分” が選択された場合：  
 “秒” の数字が 30 以上であれば、“分” の寸法値に +1 を足し、“秒” の寸法値は 0 に入れる。  
 例：計測寸法値が  $35^{\circ} 42' 30''$  →  $35^{\circ} 43'$  で寸法値を表示する。  
 計測寸法値が  $35^{\circ} 42' 29''$  →  $35^{\circ} 42'$  で寸法値を表示する。  
 計測寸法値が  $35^{\circ} 59' 30''$  →  $36^{\circ}$  で寸法値を表示する。
- c. “秒” が選択された場合：  
 現在、単位コンボボックスに “度分秒” が選択された場合と同じ。

⑤ その他は、従来と同一である。

6-5

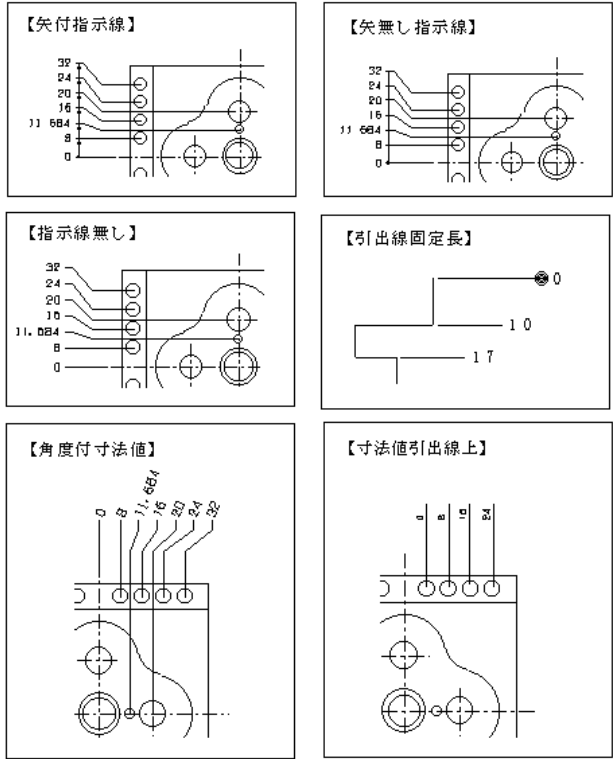
基準寸法

新規コマンド

基準点から終点までの寸法を追いながら連続で記入するコマンドを追加



小数点以下桁数設定  
 小数点以下桁数 [2]



**1.引出線** H | 0.000000000 | ↓ mm

基準線から寸法値までを結ぶ引出線を作図します。初期値はオフです。通常はオンに設定します。引出線の長さも指定できます。

**2.長さ** ↓ | 0.000000000 | ↓ mm

引出線の長さを設定することができます。長さとは第二点目以降の引き出し線の長さをいいます。初期値はオフです。

**3.前回位置**

前回位置は、寸法位置を前回指定した位置に自動的に指定する機能です。「1. 引出線」ボタンをオフにし、自由な①にその都度寸法位置を指定している場合、「3. 前回位置」ボタンをオンにすることにより、前回と同じ位置に寸法を作図します。



**4.基準値**

基準値は、基準寸法の元となる 0 点を任意の数値に置き換え、そこから累進することができます。

**5.手動**

基準寸法の文字列を、記入する前に編集することができます。  
詳細操作は「平行寸法」の手動モードを参照してください。

**6.設定**

設定は寸法線を作図する際の各種属性を指定するモードです。

基準寸法設定

共通 | 共通拡張 | 引出線側 | 引出線上

文字関連

スタイル名(S)  寸法

文字高(H)  5.00 桁記号(K) 無し

文字色(C)  手書文字(S)

イタリック  ホールド(B) 小数点以下数(U) 2

線関連

寸法線色(A)  寸法線端(B)

引出線色(C)

その他

単位(U) mm 寸倍率(R) 1

レイヤー(L)  2 B  1 L  セロサルス(Z)

登録 取消 一時 ヘルプ

原則として各寸法コマンド共通で他の寸法コマンドに連動します。

**7.公差** 無し ↓

基準寸法も文字列に公差を付加することができます。

**8.寸法値** ↓

基準寸法の文字列を記入する前に編集することができます。  
初期値はオフです。

**9.角度** K 0.00000000 ↓ °

寸法値の角度を設定することができます。  
初期値はオフです。

**0.寸倍率** W 1.00000000 ↓

寸倍率（寸法倍率）とは寸法記入時に倍率を変更し寸法値を記入するモードです。初期値は「1」です。

**A寸法変更**

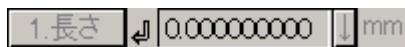
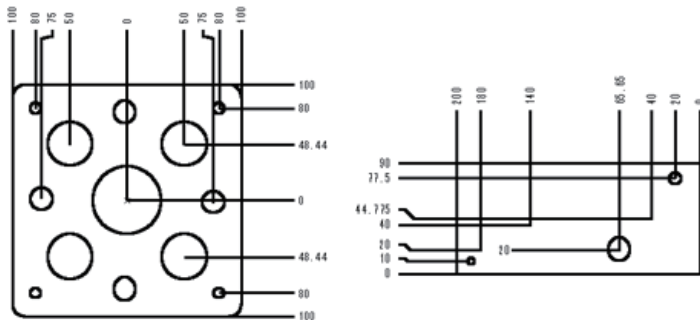
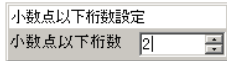
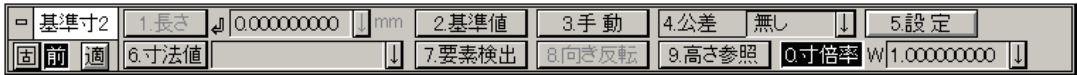
作図した形状寸法を変更するときになります。  
このボタンをクリックすると寸法変更コマンドにジャンプします。

6 - 6

# 基準寸法 2

新規コマンド

基準寸法とは別に、基準点・引出線指定で寸法を追いながら連続で記入するコマンドです。



引出線の長さを設定することができます。  
 長さとは、第二点目以降の引出線の長さをいいます。  
 初期値はオフです。

## 2.基準値

基準値は基準寸法のもととなる 0 点を任意の数値に置き換え、そこから累進することができます。

## 3.手動

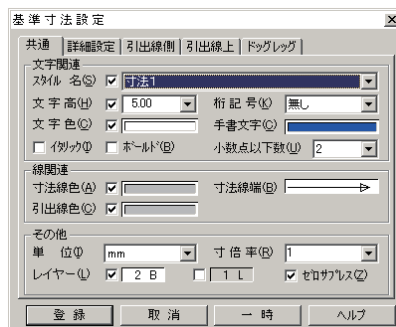
基準寸法の文字列を記入する前に編集することができます。

## 4.公差

基準寸法の文字列に公差を付加することができます。

## 5.設定

設定は寸法線を作図する際の各種属性を指定するモードです。



**6.寸法値** 

基準寸法の文字列を、記入するまえに編集することができます。

**7.要素検出**

「7. 要素検出」ボタンをオンにして要素を選択すると、その要素の端点を自動的に検出します。

**8.向き反転**

「8. 向き反転」ボタンをオンにすると引出線のXYの向きを反転することができます。CSBの[1. 長さ]を固定した場合に有効になります。

**9.高さ参照**

「9. 高さ参照」をオン他の引出線と文字位置を揃えることができます。前回高さ位置に設定している場合は使用できません。

**0.寸倍率** W 1.00000000 

寸倍率（寸法倍率）とは寸法記入時に倍率を変更し寸法値を記入するモードです。初期値は「1」です。

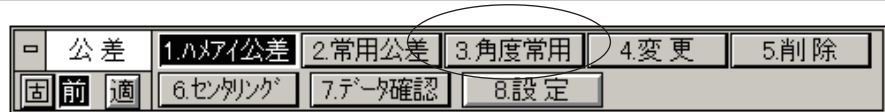
## 6-7

## 公差

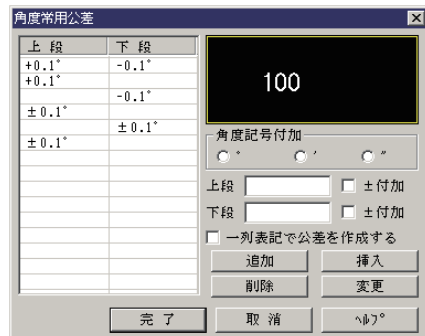
CSBに「角度常用」のボタンを追加しました。

また、公差設定ダイアログボックスは従来の「ハメアイ公差・常用公差」を合体し、ハメアイ公差部分では軸用公差・穴用公差と分離。

さらに常用公差をつけたプロパティシート形に拡張しました。



公差ダイアログボックスの拡張

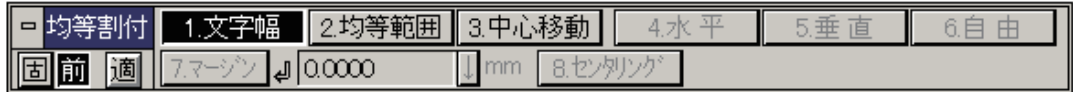


各項目にチェックをつけることで、寸法の形状に関わらず接頭の記号を作図しないモードになります。

## 6 - 8

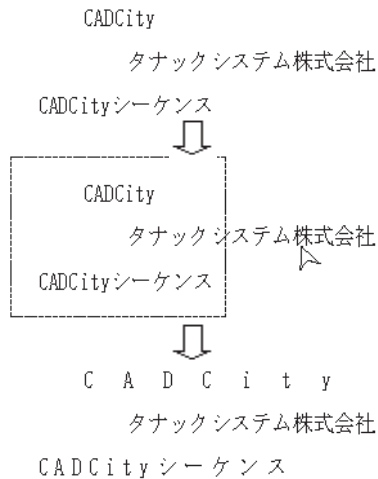
## 均等割付

配置された文字列を中央に揃えたり、文字長さを均等にする機能です。



## 1.文字幅

選択した文字列を指定した文字列と同じ長さに割付けます。

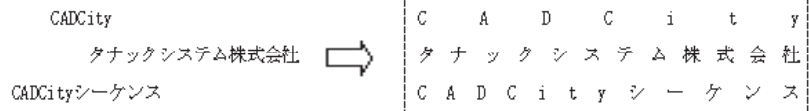


## 2.均等範囲

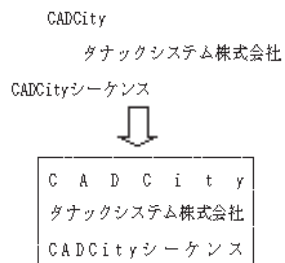
選択した文字列を指定した位置に均等に割付けます。

このボタンがオンの場合、「水平・垂直・自由・マージン・センタリング」のボタンと組み合わせて使用することができます。

## 【水平の場合】



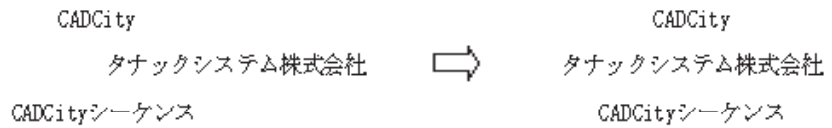
## 【垂直の場合】



### 3. 中心移動

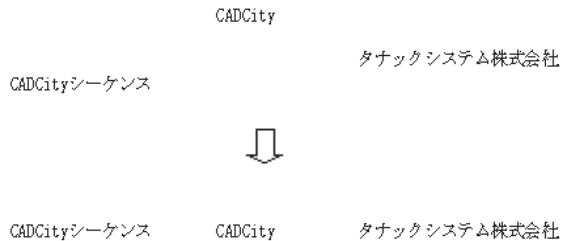
#### 【水平の場合】

水平の場合選択した文字列の基点を中心に変更し、基点を中心に揃えて割付けます。



#### 【垂直の場合】

垂直の場合選択した文字列を配置基点を基点に垂直方向に移動します。



### 4. 水平

範囲一括及び中心移動ボタンと組み合わせて使用します。

このボタンがオンの場合、選択した文字列全て水平方向に移動し、それぞれの割付けを実行します。

文字列を選択すると、水平のラバーが表示されます。

### 5. 垂直

範囲一括及び中心移動ボタンと組み合わせて使用します。

このボタンがオンの場合、選択した文字列全て垂直方向に移動し、それぞれの割付けを実行します。

文字列を選択すると、垂直のラバーが表示されます。

### 6. 自由

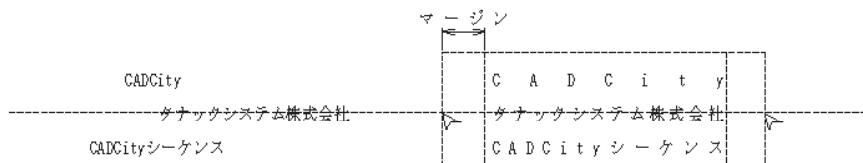
範囲一括及び中心移動ボタンと組み合わせて使用します。

このボタンがオンの場合、選択した文字列を自由な位置に移動して割付けを実行します。

また、このボタンと範囲一括ボタンがオンの場合、センタリングボタンの選択が可能となります。

7. マージン ↓ 0.0000 ↓ mm

範囲一括ボタンがオンの時にマージンを設定することができます。



操作方法はオンラインヘルプの「作図 / 文字編集 / 均等割付」を参照してください。



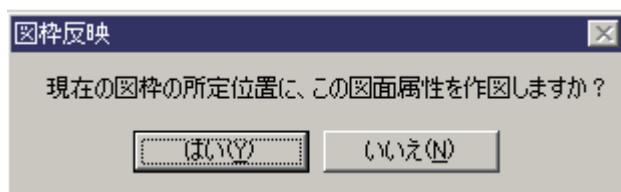
## 第7章 補助

## 7-1

## 図枠呼出

図枠情報設定がされている図枠を呼び出した時に、図枠反映をするかしないかの確認ダイアログボックスを表示するようにしました。

図枠情報設定がされている図枠を呼出すと下図の確認メッセージが表示されま  
す。



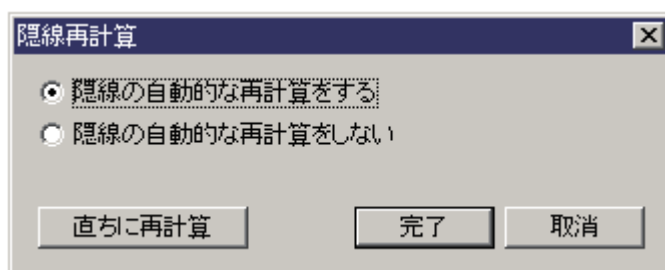
「はい」を選択すると図枠反映を行います。

「いいえ」を選択すると図枠反映を行いません。

## 7-2

## 隠線再計算

複写や変形コマンド等で内部的に自動的に行っていた隠線再計算を抑制する設定を追加しま  
した。



「○隠線の自動的な再計算をする」 初期値：オン  
複写や変形コマンド等で、必要に応じて隠線再計算を行います。

「○ 隠線の自動的な再計算をしない」 初期値：オフ  
複写や変形コマンド等での隠線再計算を行いません  
隠線情報が計算されないため表示が正しくなくなる場合があります。

[ 直ちに再計算 ] クリックすると直ちに隠線再計算を行ないます。



## 7-3

## 計測コマンド全般

文字化をするときに文字ボックスを表示します。  
また、文字の図タイルを設定できる機能も追加しました。

①文字化ボタンをクリックして配置するとき、文字ボックスを表示するように変更しました。

②文字化ボタンをマウス右ボタンでクリックすると、下図の文字設定ダイアログボックスが表示され、任意のスタイルを設定できるようになりました。



基点位置のプルダウンの↓をマウス右クリックすると文字基点設定ダイアログボックスが表示されます。



## 7 - 4

## 距離計測

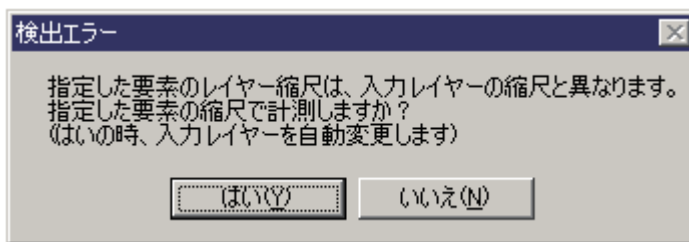
縮尺チェック・最短距離計測などの改造をしました。

「縮尺 CHK」 ボタンがオンの時、従来はメッセージが表示され、カレントの入力レイヤーで計測しました。

これを、その要素のレイヤー縮尺で計測するように変更しました。

合わせて、入力レイヤーをその要素のレイヤーに変更するように改造しました。

メッセージも以下のように変更しました。



「要素指定」をオンに設定し、線分と円の組み合わせで指定した場合、最短距離を計測する機能を追加しました。

従来の計測機能もあるので、最短距離を表示した後に「Y/N」で確認し、従来のパターンで距離を表示します。

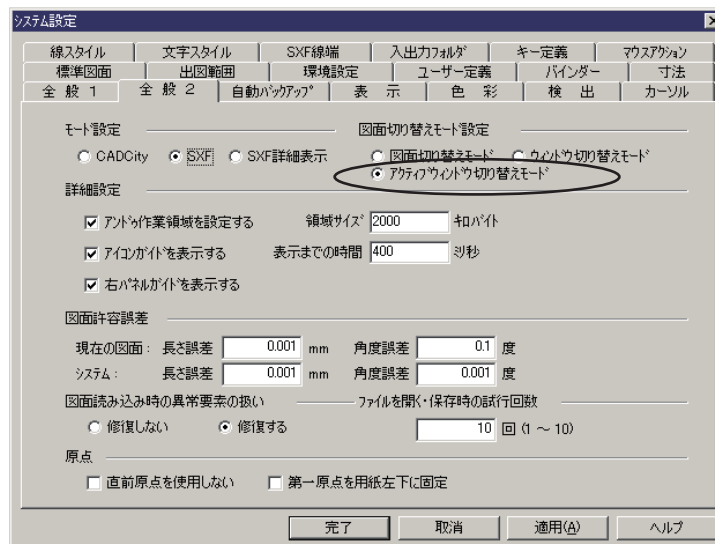
## 7-5

## システム設定 / 全般 2

図面切替モード設定に「アクティブウィンドウ切替モード」を追加しました。

アクティブウィンドウ切替モードは、複数図面を開いていた場合に、図面の位置や表示しているウィンドウはそのまま、単純にアクティブモードを切り替える設定です。

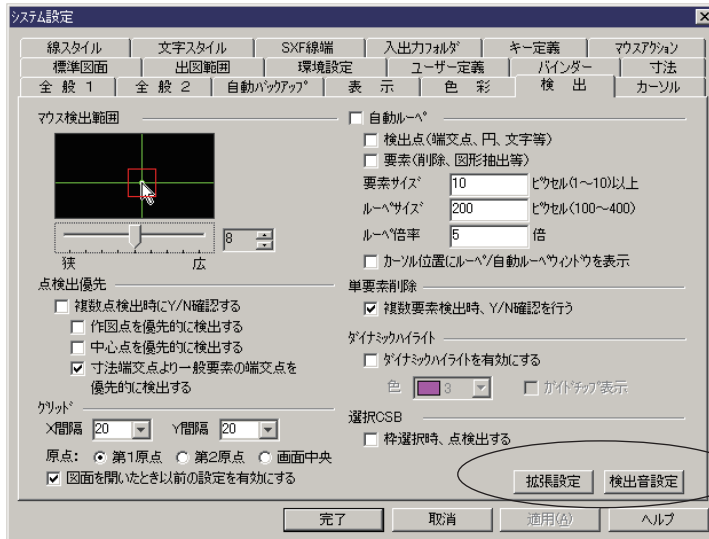
アクティブな状態の図面のタイトルバーが青く（OS の設定に依存）表示されるので、この青色状態が切り替わるモードです。



## 7-6

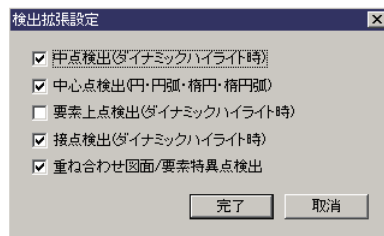
## システム設定 / 検出

検出項目に「拡張設定」「検出音設定」のボタンを追加しました。



## 拡張設定

「拡張設定」ボタンをクリックすると下記のダイアログボックスが表示されます。



中点検出 (初期値: オン)

チェックオンの場合、ダイナミックハイライト有効時に中点を検出します。  
チェックオンでも、ダイナミックハイライトしていないときは中点の検出はしません。

チェックオフの場合、ダイナミックハイライト有効としても中点は検出しません。

中心点検出 (初期値: オン)

チェックオンの場合、円・円弧・楕円・楕円弧の中心点を検出します。

チェックオフの場合、中心点は検出しません。

中心点検出はダイナミックハイライトには依存しません。

#### 要素上点検出（初期値：オフ）

チェックオンの場合、ダイナミックハイライト有効時に要素上点を検出します。チェックオンでも、ダイナミックハイライトしていないときは要素上点の検出はしません。

チェックオフの場合、ダイナミックハイライト有効としても要素上点は検出しません。

検出範囲内に複数の要素上点が点在する場合には、マウス位置に最も近い1点のみを検出します。

検出範囲内に他の特異点がある場合、そちらを優先し要素上点は検出しません。「複数点検出時に Y/N 確認する」がオンで、検出範囲内に他の特異点が存在する場合、要素上点は Y/N 確認候補点とはなりません。検出範囲内に要素上点しかない場合には要素上点を検出します。

#### 重ね合わせ図面／要素特異点検出（初期値：オフ）

チェックオンの場合、重ね合わせ図面上の要素特異点を検出します。

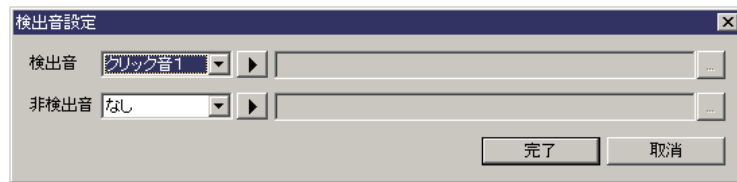
特異点には端点・中点・中心点・(重ね合わせ図面内の) 交点が含まれます。

チェックオフの場合、重ね合わせ図面上の要素特異点は検出しません。

この要素特異点検出はダイナミックハイライトには依存しません。

### 検出音設定

「検出音設定」ボタンをクリックすると下記のダイアログボックスが表示されます。



「検出音」は点検出時に特異点を検出された場合に鳴らされる音です。

「非検出音」は点検出時に特異点を検出されなかった場合に鳴らされる音です。横向き三角形ボタンはPLAYボタンになっています。クリックすると現在の設定値の検出音が視聴できます。

それぞれには以下の選択肢があります。

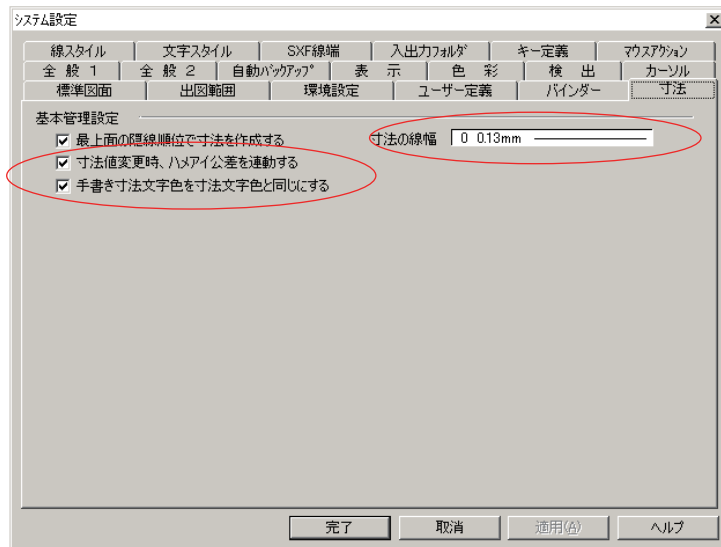
クリック音1	出荷時の検出音として鳴らされるピープ音
クリック音2	クリック音1より弱いピープ音
一般の警告音	Windows システムで設定される「一般の警告音」の WAV ファイル
WAV ファイル	ユーザ指定の WAV ファイル 右欄入力ボックスに WAV ファイルのパスを指定します。

初期値は      検出音           :   クリック音1  
                  非検出音       :   なし

## 7-7

## システム設定 / 寸法

寸法線の線幅・寸法文字の手書き文字色に関して、システム設定 / 寸法に共通項目として追加しました。



### 線幅

寸法作成時、セットした線幅で寸法要素を作成します。  
但し変更等で描かれた線幅は保持します。

### 手書き寸法文字色を寸法文字色と同じにする

寸法作成時、実寸法値と違う寸法値を作成する場合及び文字編集で寸法値を修正した場合等、文字色が各寸法設定にセットされた色を無視します。

## 7-8

## システム設定 / 標準図面

システム設定 / 標準図面設定で入力レイヤーを設定できる機能を追加しました。

線スタイル	文字スタイル	SXF線端	入出力フォルダ	キー定義	マウスアクション
全般 1	全般 2	自動バックアップ	表示	色彩	検出
標準図面	出図範囲	環境設定	ユーザー定義	バインダー	寸法
JOB.NO	タイトル	備考	作業者	キー 1	キー 2
キー 3	キー 4	キー 5	キー 6	キー 7	キー 8
キー 9	キー 10				
縮尺	1/1	図面横長	1189	図面縦長	841
用紙	A0横	用紙横長	1189	用紙縦長	841
レイヤー	無し	<input checked="" type="checkbox"/> 入力レイヤー	1 B	1 L	

新規図面作成時、設定した標準図面を参照して図面を作成した場合、標準図面で指定されている入力レイヤーがカレントレイヤーとなって図面が作成されます。

名前をつけて登録した場合、入力レイヤーが情報として登録されます。

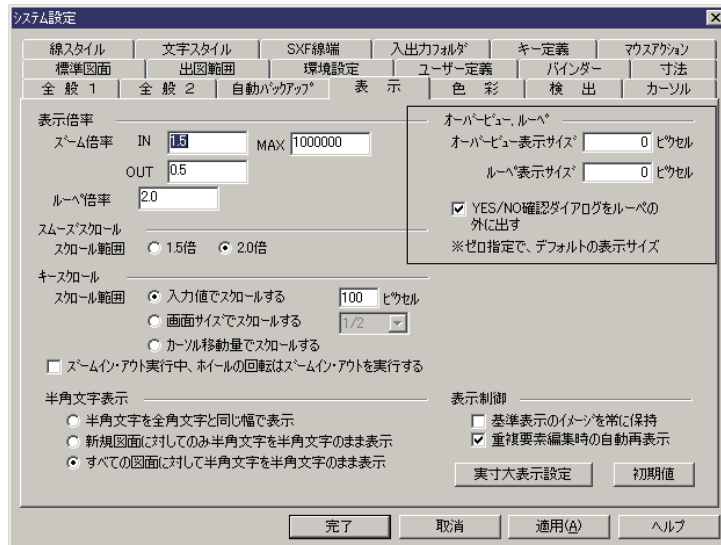
「参照」で呼び出した場合、入力レイヤーが情報として登録されている場合にはその設定が反映されます。

以前のバージョンの登録情報など、入力レイヤーが情報として登録されていない場合には、1B1L が設定されます。

## 7-9

## システム設定 / 表示

オーバビュー・ルーペウィンドウの表示サイズを変更できる機能を追加しました。



オーバビューウィンドウサイズおよびルーペウィンドウサイズを設定します。

オーバビューの表示サイズ変更は次回起動時から有効になります。  
 ウィンドウサイズは縦図面／横図面によりウィンドウの縦横比が変化します。  
 設定値は長い方のサイズを指定することになります。

ゼロを指定した場合は初期値でウィンドウサイズを表示します。

オーバビューのウィンドウサイズ : 長い方のサイズが 300 ピクセルです。  
 ルーペのウィンドウサイズ : 画面サイズの 1/3 になります。

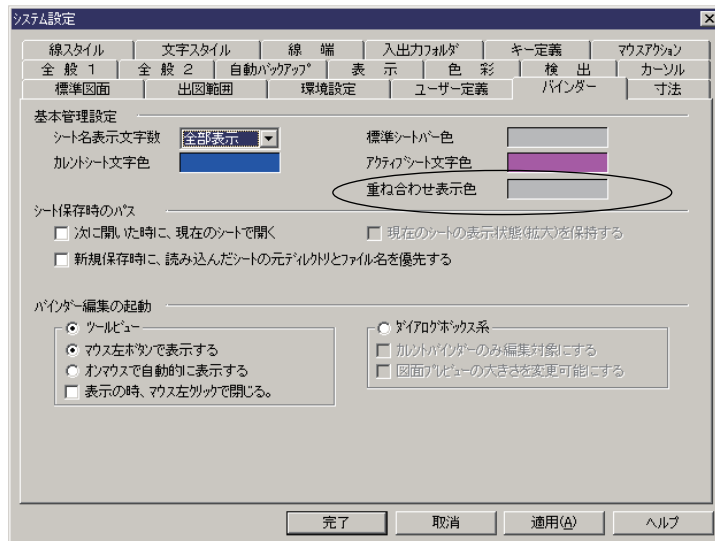
「YES/NO の確認ダイアログをルーペの外に出す」をオンにすると確認ボタンがルーペの外に出すことができます（初期値）。



7 - 10

## システム設定 / バインダー

重ね合わせ表示色を指定する項目を追加しました。



ツールビューの重ね合わせ表示色のデフォルト値の設定になります。



## 第8章 オプション

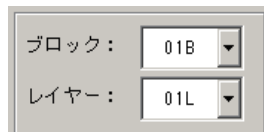
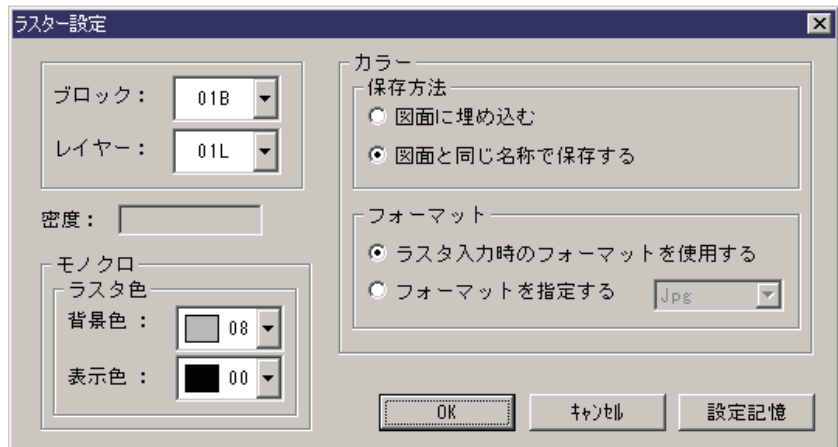
## 8 - 1

## カラーラスターライト

ラスタ設定コマンドでカラーラスターに対応しました。(R版機能のみ)

カラーラスターオプションをご購入いただいた場合、下図のように設定ダイアログボックスが変更されます。

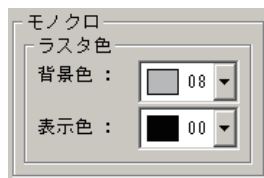
※カラーラスターをお持ちでない場合は従来通りです。



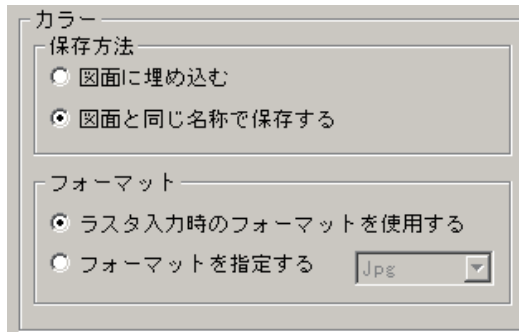
ラスタデータを配置するブロックとレイヤーを指定します。



ラスタデータの密度が表示されます。



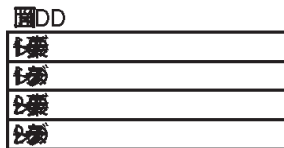
モノクロラスタの背景色と表示色を設定します。



### 【保存方法】

カラーラスタが配置された図面を HDD, HDC などのファイルに保存する際に図面に埋め込んで保存するかを選択します。

図面に埋め込む場合は下図のように HDD, HDC ファイル内に直接ラスタデータを抱え込みます。



図面と同じ名称で保存する場合は下図のように HDD, HDC ファイルとラスタデータファイルが別々に保存されます。



ラスタデータファイルの命名規則は、保存する FDD, FDC ファイルと同じフォルダに保存する FDD, FDC ファイル名（拡張子を含む）にラスタイメージの拡張子をつけたものです。

また、HDD 保存の場合はラスタイメージの拡張子の前にシート番号が入ります。

### 【フォーマット】

ラスタイメージのフォーマットを変更する場合に使用します。

ラスタ入力時のフォーマットを使用するがオンの場合

ラスタ外部入力で読み込まれたフォーマットをそのまま使用します。

フォーマットを指定するがオンの場合

コンボボックスから変更するフォーマットを選択します。

選択できるフォーマットは

- jpg      JPEG フォーマット
- bmp     WindowsBitmap
- tif     非圧縮カラー Tiff フォーマット

の 3 種類です。



OK、キャンセル、設定記憶ボタンやコマンド起動時の初期値は従来のコマンドと同様の処理をしますがカレント DB の状態によって多少変更があります。

**【ラスタなし】**

初期値は設定ファイルから読み込んで初期化されOKボタンはコマンドの終了です。

**【モノクロラスタ】**

ダイアログボックスの共通部とモノクロの設定はDBに登録されている値で初期化され、カラーラスタの初期値は設定ファイルから読み込んで初期化されます。

OKボタンを押した時には共通部とモノクロの設定のみをカレントラスタに反映しカラーラスタに関する設定は無視されます。

**【カラーラスタ】**

モノクロとは逆にカラーラスタに関する設定が有効になり、モノクロに関する情報は無視されます。